



1	2023年9月期 第3四半期業績	P3
2	成長戦略と中期経営計画	P16
3	カンパニー・ハイライト	P32
4	ウェディング業界の構造変化	P42
5	リスク情報	P48
6	参考情報	P50

2023年9月期 第3四半期業績

単価の上昇が寄与し、売上収益は前年同期比+10.2%となるも、
出店加速による新規出店コスト増加もあり、固定資産譲渡益を除く営業利益は減益。

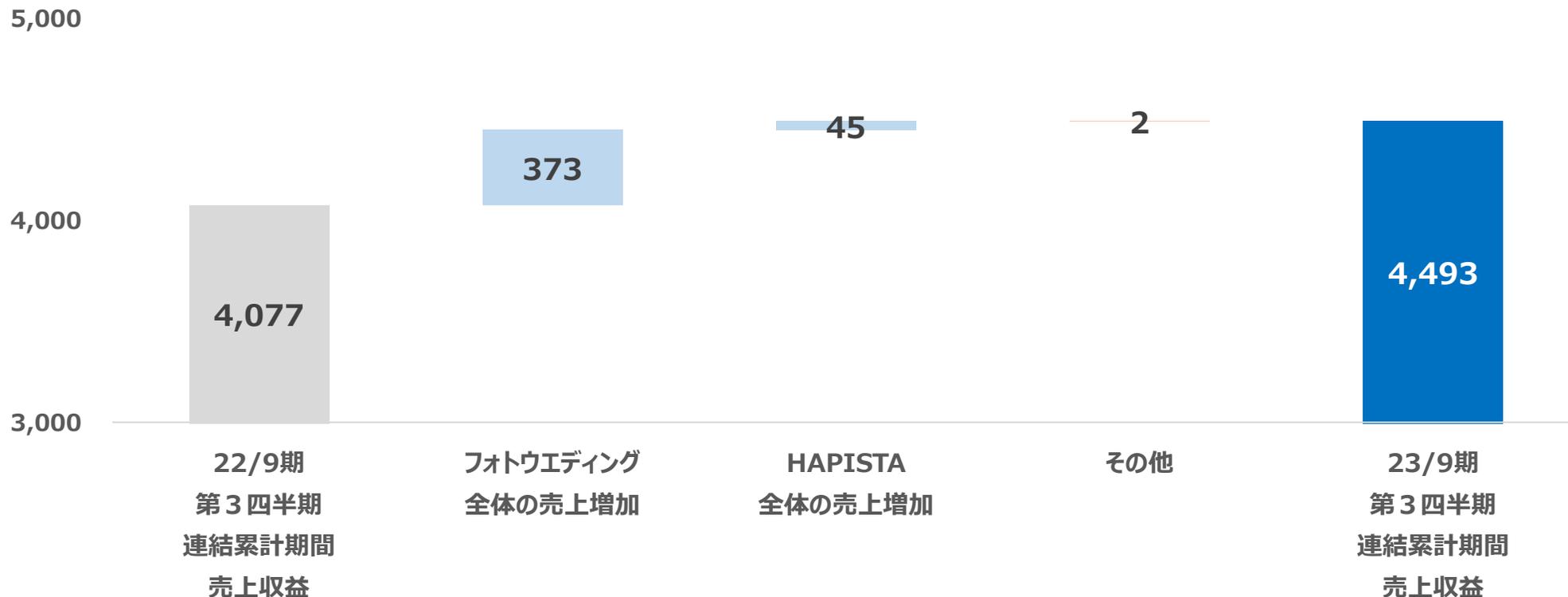
(単位：百万円)	23/9期 第3四半期累計実績	22/9期 第3四半期累計実績	前年 同期比	23/9期 通期予想
売上収益	4,493	4,077	110.2%	6,039
売上総利益	1,831	1,800	101.7%	
営業利益	777	1,275	61.0%	945
うち固定資産譲渡益	-	437		
固定資産譲渡益を除く営業利益	777	838	92.8%	
当期利益	458	820	55.8%	533
固定資産譲渡益相当額	-	298		
固定資産譲渡益を除く当四半期利益	458	521	87.8%	
新規出店店舗数（移転含む）	8店舗	2店舗		

- フォトウエディングサービスは撮影件数が前年同期を下回る水準で推移するも、引き続き高い撮影単価（前年同期比+16.7%）を維持した結果、売上収益は前年同期比+9.6%、全社売上収益は前年同期比+10.2%の成長。※ 撮影件数・単価の推移についてはP10参照
- 売上収益は成長を継続するも、積極的な新規出店に伴う衣裳および物品購入費等の新規出店コスト増加の影響を受け、固定資産譲渡益を除く営業利益は前年同期比▲7.2%の減益。新規出店は前期2店舗に対して、当第3四半期連結累計期間は移転を含めて8店舗となりイニシャルコストが増加。
- 出店加速によりイニシャルコストは増加するが、将来の成長を見据え新規出店を継続。

前第3四半期連結累計期間からの売上収益の推移

当第3四半期連結累計期間の売上収益は44.9億円（前期比+10.2%）
フォトウエディング全体の売上の成長（前期比+9.6%）が増収に大きく寄与

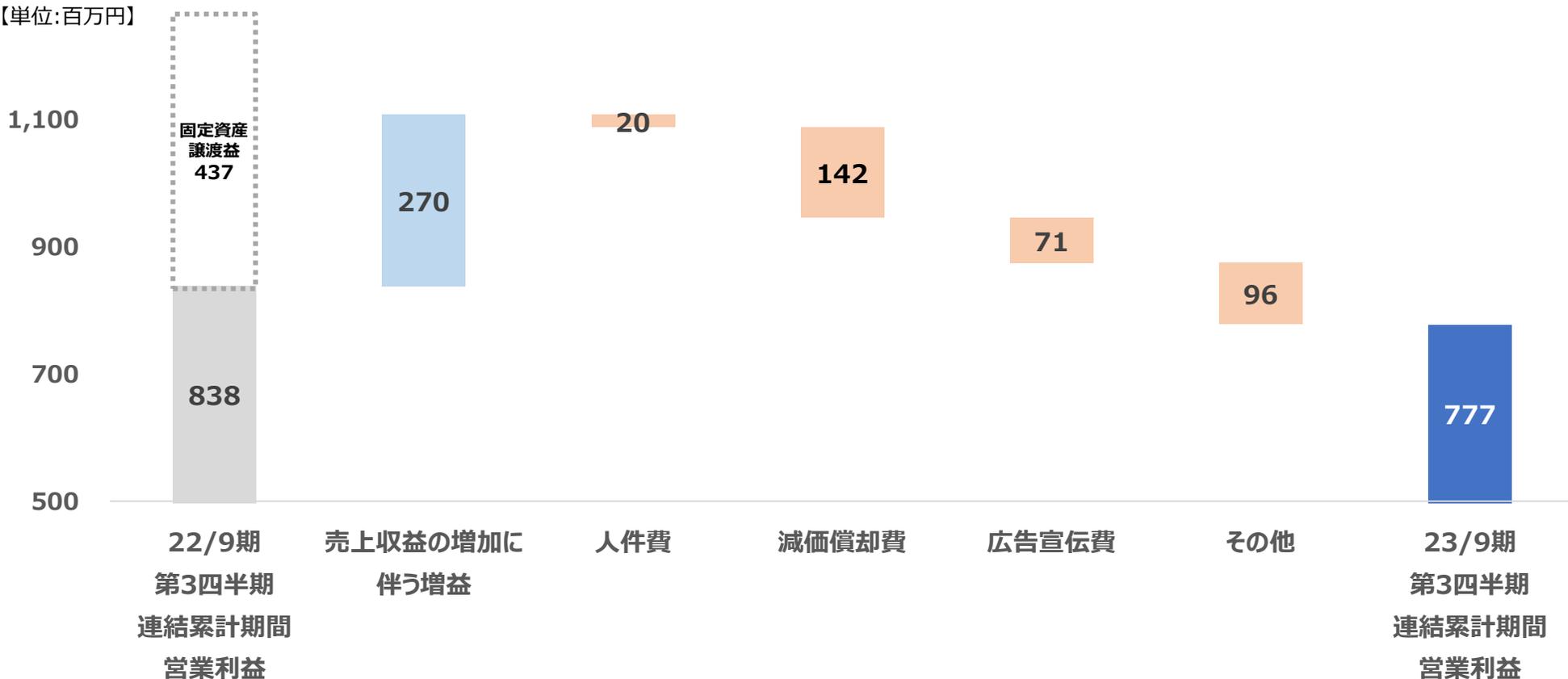
【単位:百万円】



前第3四半期連結累計期間からの営業利益の推移

前年計上の固定資産譲渡益を除いた場合、売上収益は増加するも
出店加速による新規出店コスト増加もあり、営業利益は▲7.2%の減益※

【単位:百万円】



売上収益の増加に伴う増益 : 商品仕入、衣装修繕、撮影に伴う旅費交通費等の増減を考慮後、増益額を試算したもの

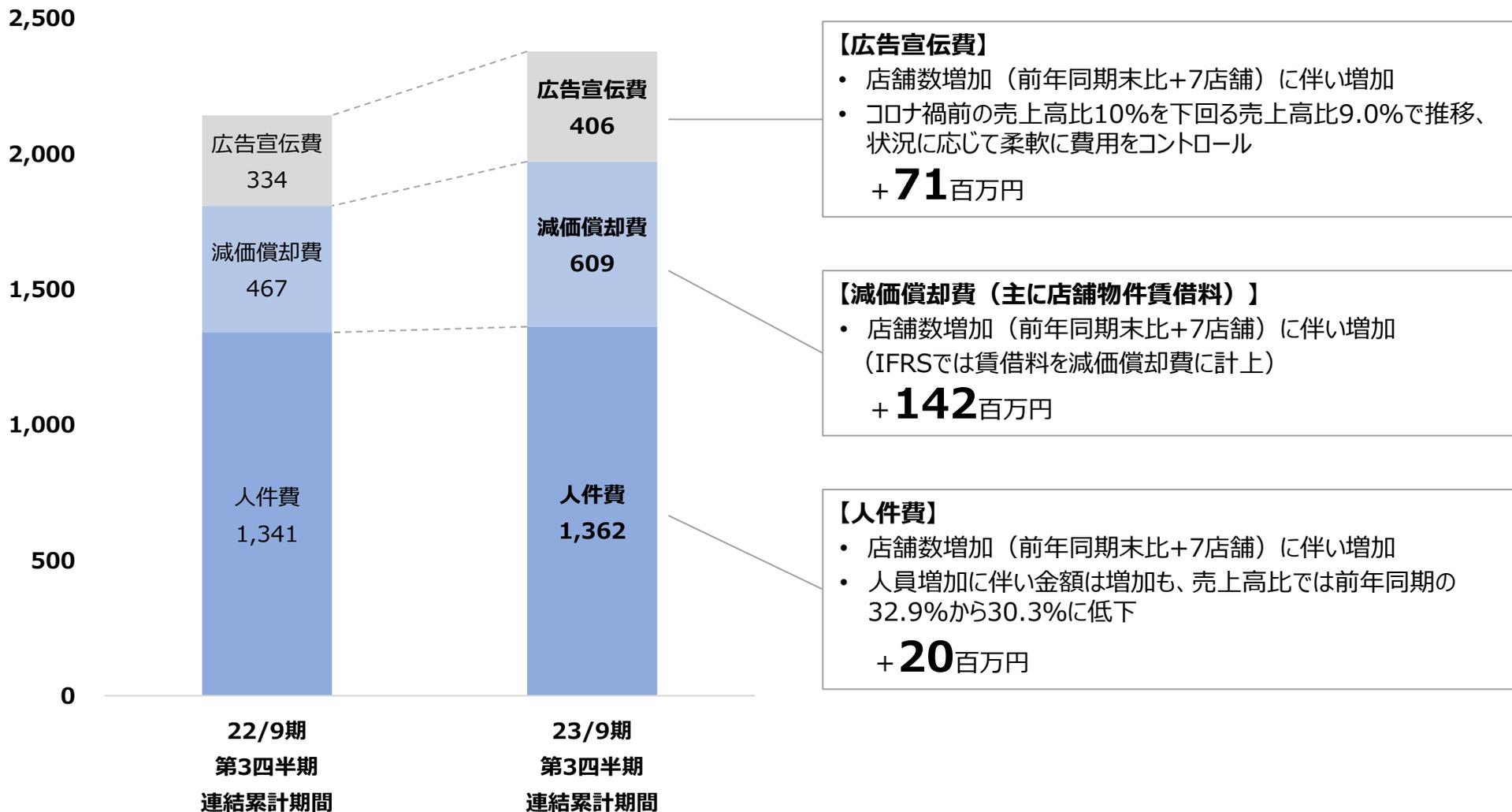
減価償却費 : 22年9月期および23年9月期の新規出店に伴い増加

広告宣伝費 : 顧客獲得のため、広告宣伝を積極的に実施している影響

※2022年9月期第3四半期累計期間の固定資産譲渡益を除く営業利益との比較数値

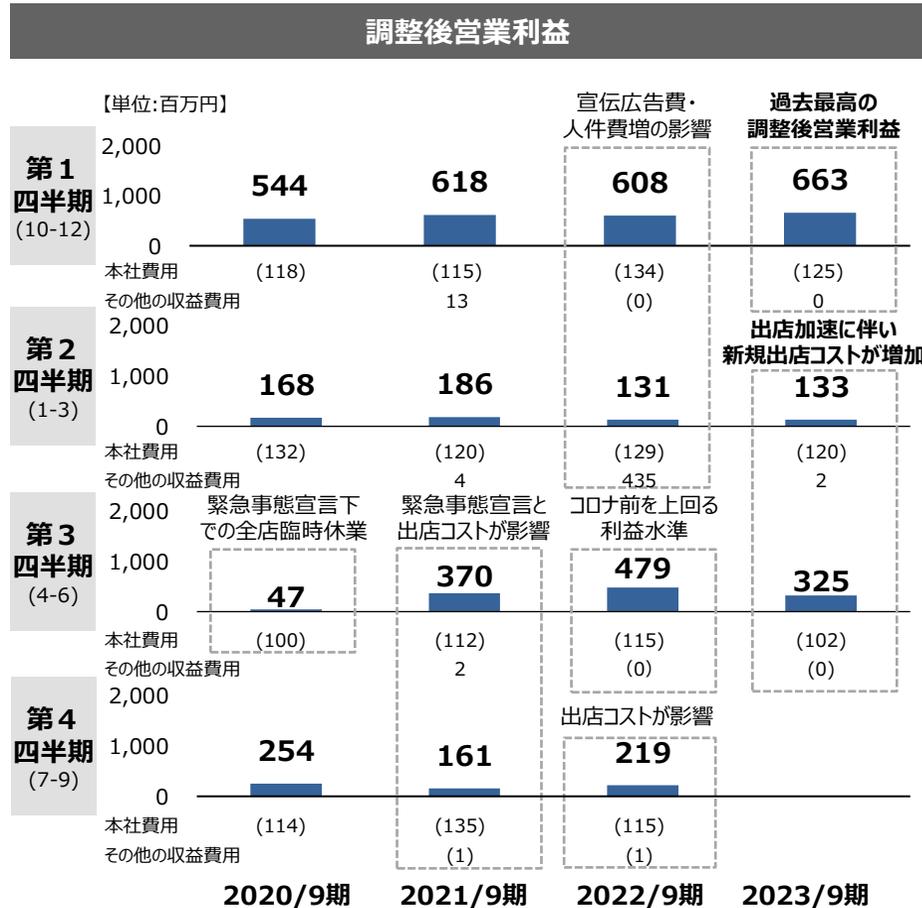
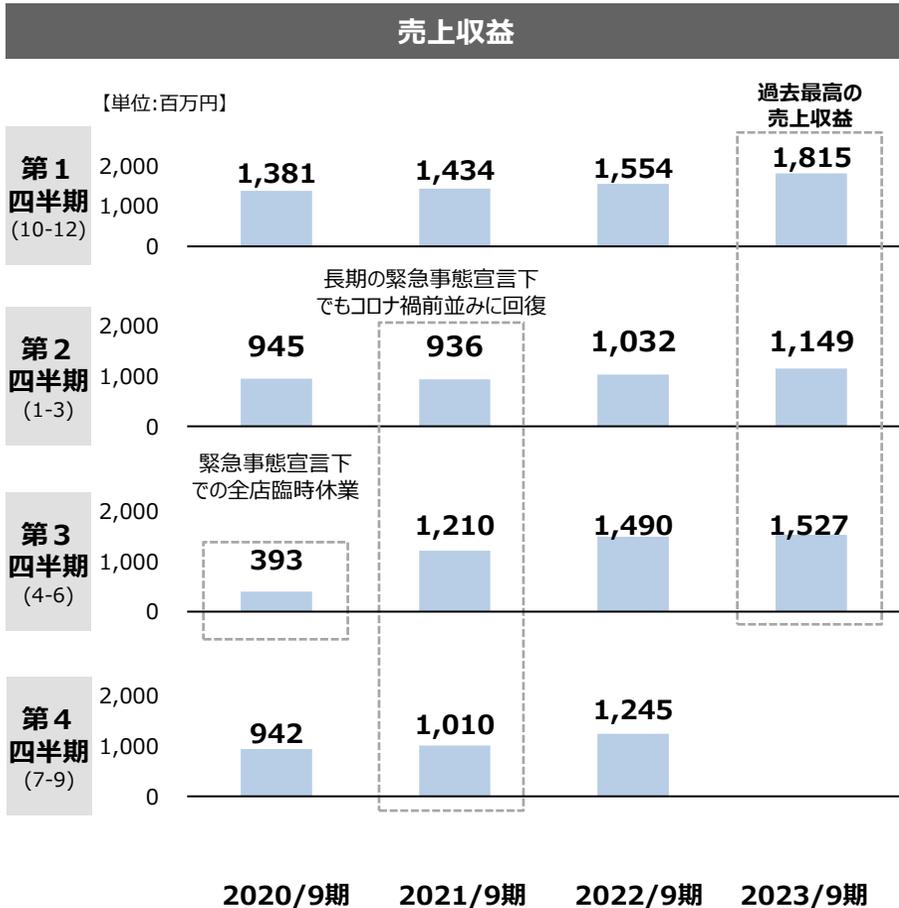
店舗数増加に伴う賃借料の増加により、減価償却費が大きく増加。
 広告宣伝費は店舗増加に伴い強化しつつも、売上高比では前年同期並みの水準で推移。

【単位:百万円】



四半期業績 推移（調整後営業利益）

国内リゾートでの売上好調が牽引し、当第3四半期も過去最高の売上収益。
出店加速に伴う新規出店コスト増加が影響し、調整後営業利益は前年同期比減益。



注：売上収益は2023年6月末時点における継続事業（スタジオ事業及びフィットネス）
調整後営業利益 = 営業利益 + 本社費 + (その他の費用 - その他の収益)
本社費は財務・管理部等の本社機能に係る費用

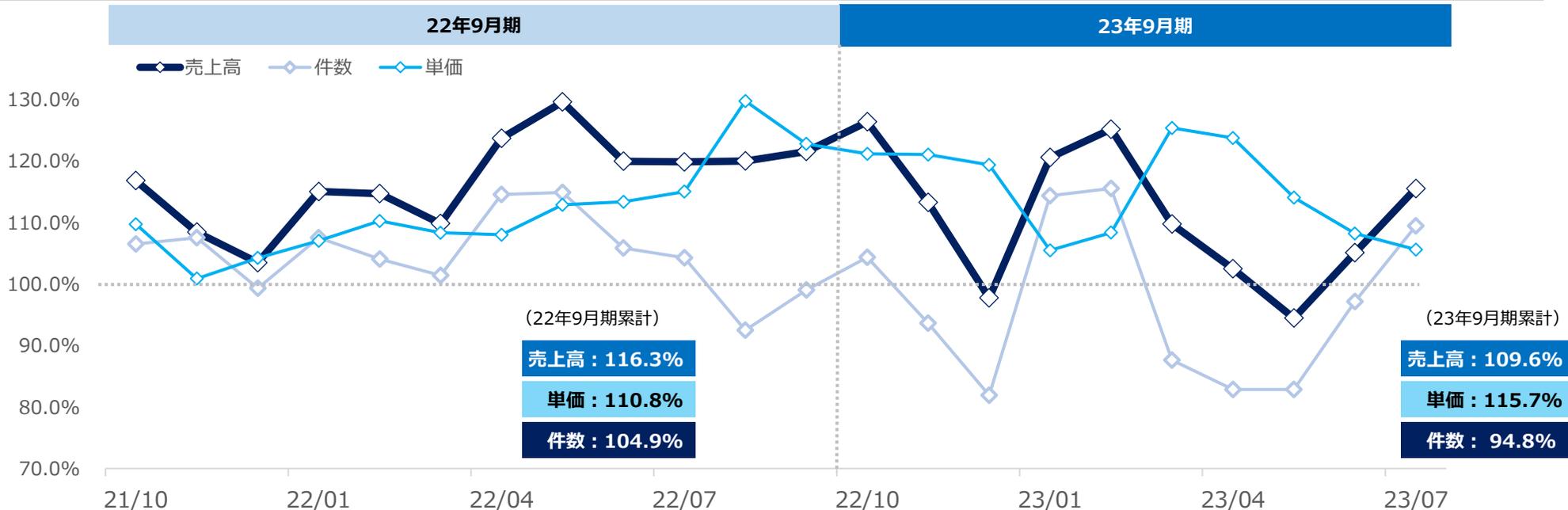
撮影件数は前年同期を下回るも、単価の上昇により売上収益は前年同期比+2.5%。
出店加速による新規出店コスト増加の影響もあり営業利益は前年同期比▲38.6%。

(単位：百万円)	23/9期 第3四半期	22/9期 第3四半期	前年 同期比
売上収益	1,527	1,490	102.5%
売上総利益	581	689	84.3%
営業利益	223	363	61.4%
営業利益率	14.6%	24.4%	
当四半期利益	122	227	53.8%
新規出店店舗数（移転含む）	6店舗	1店舗	

- 第3四半期の撮影に向けて受注件数を積み上げる時期（12月～1月）に新型コロナウイルス感染症第8波の影響を受け、撮影件数は前年同期比▲13.1%と減少。一方、ライブタッチの導入、比較的単価の高いリゾート型店舗での撮影が増加する等、撮影単価が前年同期比+15.2%と上昇した結果、売上収益は前年同期比+2.5%で着地。
- 当第3四半期連結会計期間は前年同期の新店1店舗に対し四半期で過去最多の新店4店舗を出店、2店舗を移転オープンしたことにより、新規出店コストが増加。売上収益は増加するも、営業利益は前年同期比▲38.6%で着地。

ライブタッチの利用拡大、衣裳単価の上昇、リゾート型店舗の需要拡大等により
単価は期中累計で前期比+15.7%、売上高は期中累計で前期比+9.6%

フォトウェディングサービス全体前年比推移



フォトウェディングサービス全店成長要素

単価

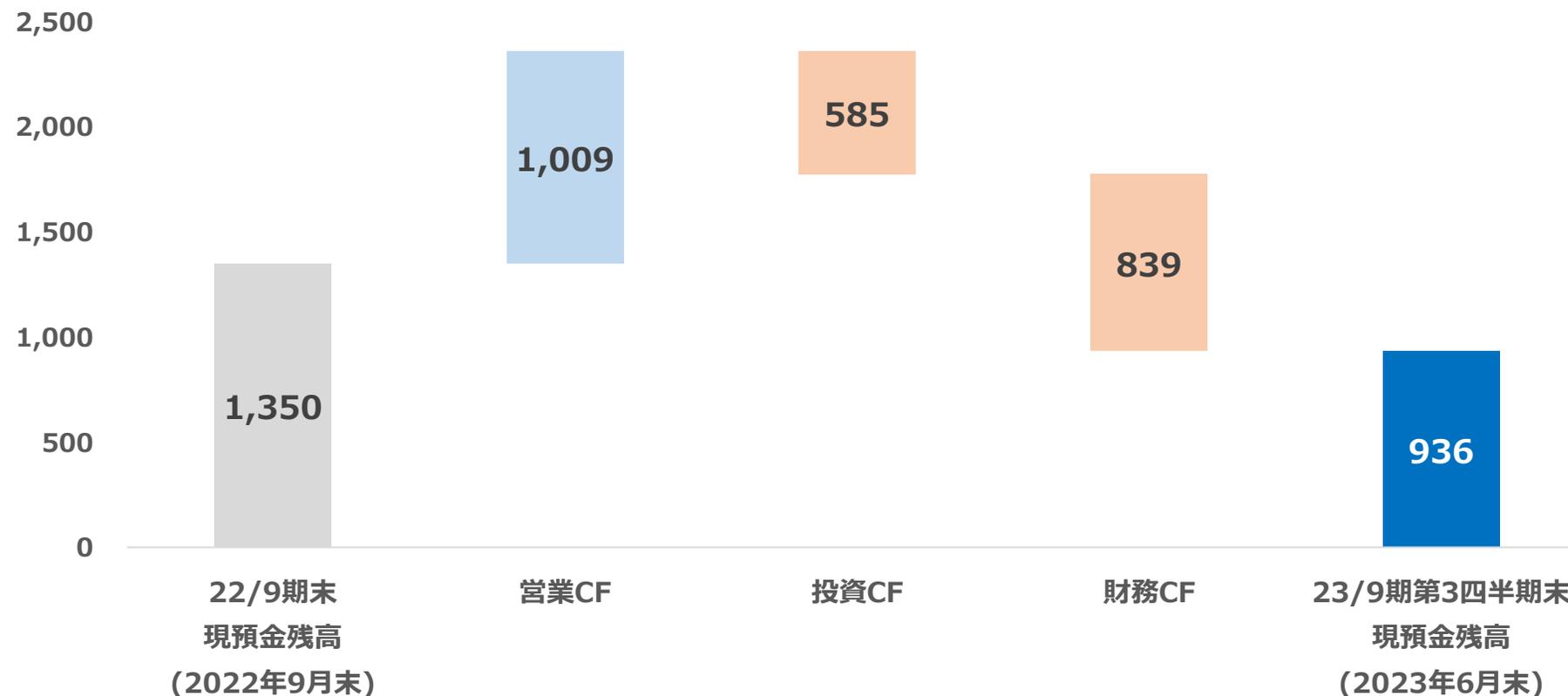
- 2022年5月より導入した**ライブタッチの利用拡大が大きく貢献**
- 衣裳単価は引き続き上昇。**1組あたり着数の増加に加えて**、国内外のハイブランドとの提携により導入した**高価格帯衣裳の利用が増加**
- 単価の高い「リゾート型店舗」の需要が大幅に拡大し、単価向上に貢献**
- 今後も様々な写真+a商品のプラン充実を通じて、客単価向上施策を進めていく

件数

- コロナ感染の第8波が受注活動に影響
- 「和装・洋装二着」、「スタジオ+ロケーション撮影」等で**単価が上昇する一方、施行の長時間化が撮影件数に影響**
- 行動制限の緩和が進んだことで、沖縄などの**「リゾート型店舗」需要が増加**。
- ウィズコロナへ移行する中、**挙式・披露宴の再開による前撮り・別撮りニーズの高まりが見込まれる**

**営業CFはフォトウェディングサービス全体の売上収益の伸びにより10.0億円の増加
新規出店に伴う投資CFおよび借入金返済に伴う財務CFの減少により期末残高は減少**

【単位:百万円】



投資CF : スタジオAQUA横浜駅前店、スタジオSUNS宮古島サロン、スタジオSOLA札幌店などの出店に伴う、有形固定資産及び無形資産の購入による支出（497百万円）
当期出店店舗、および本年度出店予定店舗の賃貸借契約に伴う差入保証金の支出（189百万円）

財務CF : 短期借入金の返済（435百万円）
賃貸借契約に伴うリース負債（店舗物件の賃料）の支払（400百万円）

**宮古島の店舗物件購入、新規出店に伴う投資により、現金及び現金同等物は4.1億円減少。
新店及び第4四半期以降に出店する店舗賃借料相当の使用権資産およびリース負債が増加。**

(単位：百万円)

	23年6月末	22年9月末	増減
現金及び現金同等物	936	1,350	▲414
営業債権及びその他の債権	262	222	40
その他	149	150	0
流動資産合計	1,348	1,723	▲374
有形固定資産	1,246	938	307
使用権資産	5,030	3,735	1,294
のれん	5,635	5,635	0
その他	642	554	87
非流動資産合計	12,555	10,865	1,689
資産合計	13,903	12,588	1,315

	23年6月末	22年9月末	増減
短期借入金	2,494	258	2,236
リース負債	602	443	159
その他	1,076	1,142	▲65
流動負債合計	4,173	1,844	2,329
借入金	482	3,126	▲2,643
リース負債	4,206	3,101	1,105
その他	315	259	55
非流動負債合計	5,004	6,486	▲1,482
資本合計	4,725	4,257	468
負債及び資本合計	13,903	12,588	1,315

**現金及び現金同等物
使用権資産、リース負債
借入金**

：シンジケートローンの一部繰上返済含む借入金の返済（435百万円）等による減少
：当期出店店舗などの賃貸借契約締結に伴う増加、契約済み賃貸借契約に伴うリース料（家賃）の支払いによる減少
：2020年12月に締結したシンジケートローンの返済期限が2023年11月末であるため短期借入金に振替。期限までに借換予定

<賃貸借契約等に伴い計上する使用権資産・リース負債について>

IFRS第16号「リース」の適用により、当社が賃借する物件（主に店舗用）の賃借契約を締結すると、将来にわたって支払う予定の賃料総額の割引後キャッシュ・フローの合計額をリース負債として計上し、あわせて当社の「使用権」として使用権資産に計上している。

<総資産に占めるのれんの割合が高いことについて>

当社グループはIFRSに基づき連結財政状態計算書を作成しているため現行基準下では当該のれんの償却は不要となりますが、非流動資産にのれんとして5,635百万円を計上しており、総資産に占める割合が40.5%（2023年6月末時点）。2022年9月期連結会計年度末時点における回収可能価額は、のれんが含まれる資金生成単位又はそのグループの資産の帳簿価額を大幅に上回っていることから、減損テストに用いた主要な仮定が合理的な範囲内で変更されたとしても、当該資金生成単位又はそのグループの回収可能額が帳簿価額を下回る可能性は低いと考えています。今後5年間の成長率がゼロであった場合でも回収可能価額がのれんが含まれる資金生成単位又はそのグループの資産の帳簿価額を十分に上回るため、減損の可能性は低いと考えています。

当期業績予想の修正 (1/2)

2023年6月19日付で業績の下方修正を発表。

売上収益60.3億 (前年比+13.5%)、営業利益9.4億 (実質前年比-4.0%)

(単位: 百万円)	23/9期 業績修正予想	23/9期 業績当初予想	増減額	22/9期 実績	前期比 (対修正予想)
売上収益	6,039	6,928	▲889	5,322	113.5%
売上総利益	2,375	2,748	▲372	2,224	106.8%
営業利益	945	1,233	▲288	1,377	68.6%
営業利益率	15.7%	17.8%		25.9%	
固定資産譲渡益を除く営業利益 ^{※1}	945	1,233	▲288	985	96.0%
固定資産譲渡益を除く営業利益率	15.7%	17.8%		18.5%	
当期利益	533	735	▲202	1,018	52.4%
固定資産譲渡益を除く当期利益 ^{※2}	533	735	▲202	720	74.1%
固定資産譲渡益を除く当期利益率	8.8%	10.6%		13.5%	

※1 22/9期は営業利益から期中に実施した固定資産譲渡に伴い発生した収益及び費用を控除した利益

※2 22/9期は期中に発生した固定資産譲渡益を控除した利益

- フォトウェディングサービスにおいて、年間における第2の繁忙期となる3月中旬以降の撮影件数を伸ばし続けることができず、撮影単価は好調に推移したものの、5月単月の全店売上高は前年同月比-5.6%。今後の売上計画を再検討した結果、売上収益は前期比+13.5%となる見込み。
- HAPISTAの出店計画に修正があるも、フォトウェディングサービスにおいては、計画外の宮古島店の出店を行った結果、新規出店コストが増加。固定資産譲渡益を除く営業利益は前期比-4.0%となる見込み。

当期業績予想の修正（2/2）

スタジオ事業の各サービスにおいて顕在化した課題を整理、改善に向けた取組を進行中。

フォトウェディングサービスにおける改善に向けた取組

課題

- 撮影時間の増加による稼働率低下
 - 衣装着数の増加、国内リゾートでの撮影増加などにより、高単価ながら一組あたりの撮影時間が増加したことにより、稼働率が低下
- 平均撮影単価の急激な上昇
 - ライブタッチ、ハイブランド衣裳導入等の単価向上施策が奏功し高価格帯の撮影は増加したが、中～低価格帯の撮影が減少

改善に向けた取組

- 稼働率向上に向けたスタジオの強化
 - 回転率の良いスタジオ撮影を増やすため、既存各店の屋内スタジオの魅力を高めるリニューアルを実施
 - 繁忙期の施行からスタジオ撮影を閑散期に誘導、閑散期の稼働率向上に加えて繁忙期の撮影枠が増加
- 幅広い価格帯に対応するオプションの整備
 - 衣裳を中心にオプションの選択肢を整備、本来の強みである幅広い価格帯の顧客に対応する体制を再構築、件数増加に注力

スタジオの稼働率向上・撮影件数の回復へ

アニバーサリーフォトサービスにおける改善に向けた取組

課題

- 開店から想定売上高に到達する期間が計画に対し長期化
 - 前期より出店ペースを加速し、商圈拡大は進むも、想定している売上高水準に到達するまでの期間が計画に対して長期化する傾向

改善に向けた取組

- 様々な広告・宣伝手法を取り入れ
 - SNS中心の集客活動に頼らず、各店舗の商圈内における認知度を向上
- 出店済み店舗の強化
 - 第4四半期に計画していた出店を延期し、出店済み店舗の集客の強化、人員育成等、売上向上施策の確立に注力

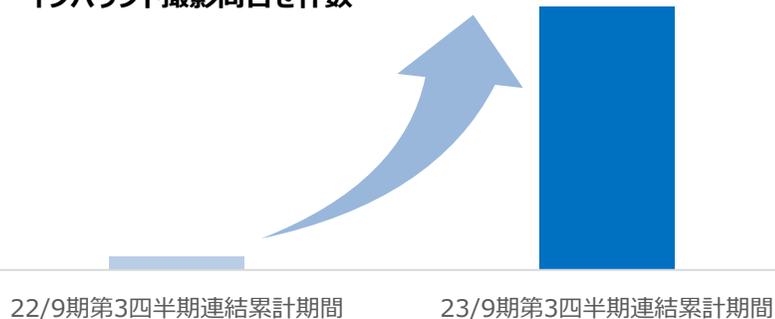
早期収益化パターンの確立と来期の新規出店再開へ

入国規制緩和を受け、インバウンド再開に向けた取組を強化。 コロナ後成約の顧客も増加傾向にあり、今後さらなる拡大を目指した施策を実施。

当期におけるインバウンドの回復状況

- コロナ禍以前は香港に事務所を置き、2019年9月期のインバウンド売上高（国外居住者からの受注によるサービス提供に伴う売上高）は香港を中心に約93百万円
- 4月以降の入国規制緩和を受け、コロナ前に受注していた顧客の撮影を順次再開していたが、**今期第3四半期までの撮影件数のうち8割強を2022年秋以降成約の顧客が占め、新規受注の増加が目立つ**
- コロナ前から主要な顧客獲得ルートとなっていた**香港最大のウエディングイベントへの出展も2023年6月より再開**
- 香港に加えて**台湾へのイベント出展も計画中**
- 当第3四半期連結累計期間の問い合わせは前年同期と比較して**20.1倍**と、主に香港、台湾のインバウンド需要が拡大

インバウンド撮影問合せ件数 **20.1倍に拡大**



市場拡大と新事業を含む今後の成長に向けた取組

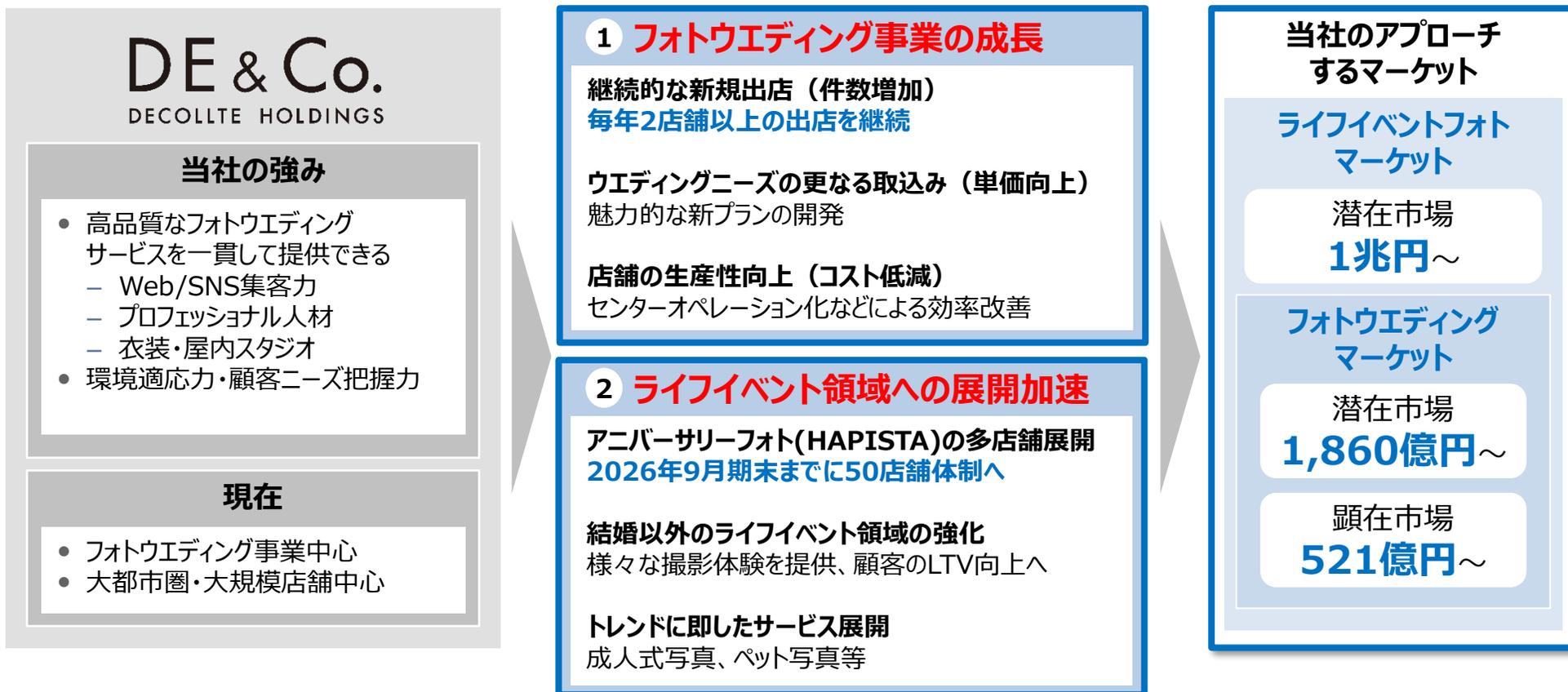
- 中国本土からの旅行客数は回復が遅れているものの、市場規模と今後の回復を踏まえ、**中国本土でのマーケティング活動を開始。香港・台湾以上の顧客獲得を想定し、受注・撮影の受入態勢の強化を進行中**
- 香港・台湾からの受注の回復、中国本土でのマーケティング活動の本格化を進め、早期にコロナ禍以前を超えるインバウンド売上高の獲得を目指す
- また、訪日外国人に人気の浅草で**インバウンド向け新業態の店舗を開店**（第4四半期）予定、**ウエディングフォト以外の需要を取り込む**



成長戦略と中期経営計画※

※当資料に掲載の中期経営計画の業績関連数値は2022年11月4日付「2022年9月期決算及び中期経営計画説明資料」に掲載の内容と同一であり、2023年9月期の業績予想の修正による影響は織り込んでいません。

フォトウェディング事業の堅実な成長に加え、ライフイベント領域におけるデジタルフォトニーズを捕捉、顧客のライフタイムバリュー(LTV)向上を成長につなげる



注：ライフイベントフォトマーケットにおける市場規模の算出方法についてはP.54～57に記載

フォトウェディングマーケットにおける顕在市場はP.25記載のフォトウェディング市場規模、潜在市場はP.44に記載

かかる推計は、一定の前提の下、外部の統計資料や公表資料を基礎として当社が推計したものであるが、基礎となる統計資料や推計には固有の限界があるため、実際の市場規模はかかる推計値と異なる可能性がある

主力事業のフォトエディングサービスのさらなる成長に加えて アニバーサリーフォト「HAPISTA」の成長を加速、ライフフォトカンパニーの礎を創る

中期経営計画（23/9期-25/9期）

中期経営計画の概要

フォトエディング市場のリーディングカンパニーからライフフォトカンパニーへ

【フォトエディングサービスのさらなる成長】

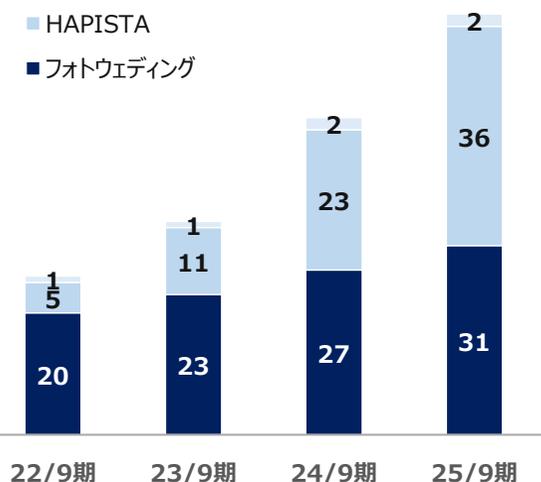
- フォトエディングのリーディングカンパニーとして自ら市場を広げる活動とともに、出店ペースを上げ、さらなる成長を目指す
- 顧客層の厚い大都市圏への出店を進めつつ、2025年9月期には地方都市型店舗の展開を開始、商圈を拡げていく
- 一部センター化を開始した衣裳管理に加え、オンライン接客のセンター化など、店舗運営の効率化に向けた取組も進める

【ライフフォトカンパニーの礎を創る】

- アニバーサリーフォトを提供するHAPISTAの展開を加速、2026年9月期末までに50店舗体制へ拡大
- 成人式写真は事業化に向けた動きを加速、他のライフイベント領域への進出も検討

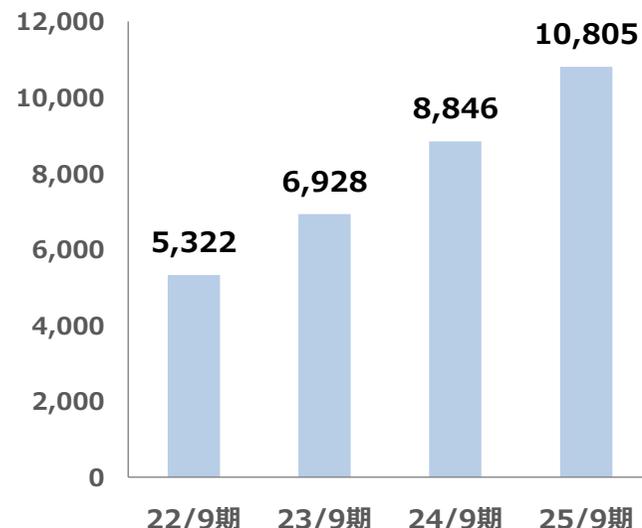
店舗出店計画

- その他 *1
- HAPISTA
- フォトエディング



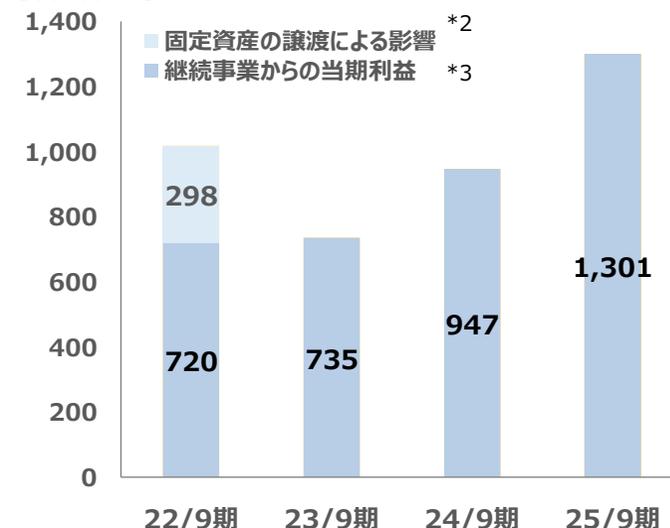
売上収益

【単位:百万円】



当期利益

【単位:百万円】



※ 1 : ハレイ及び成人式フォトサービス

※ 2 : 22年9月期に実施した固定資産譲渡益

※ 3 : 継続事業からの当期利益は固定資産譲渡益の影響を除いた数値

※当資料に掲載の中期経営計画の業績関連数値は2022年11月4日付「2022年9月期決算及び中期経営計画説明資料」に掲載の内容と同一であり、2023年9月期の業績予想の修正による影響は織り込んでいません。

店舗展開の加速により売上収益は年率22%~30%の成長率
出店に伴う投資が発生するが、営業利益成長率※4は25%~35%

(単位：百万円)	22/9期 (実績)	23/9期 (計画)	24/9期 (計画)	25/9期 (計画)
売上収益	5,322	6,928	8,846	10,805
営業利益	985 ※3	1,233	1,582	2,136
営業利益率	18.5%	17.8%	17.9%	19.8%
当期利益	1,018	735	947	1,301
うち継続事業（スタジオ、フィットネス）※1	720	735	947	1,301
うち固定資産譲渡に伴う影響※2	298	-	-	-
当期利益率	19.1%	10.6%	10.7%	12.0%
売上収益成長率		30.2%	27.7%	22.1%
営業利益成長率 ※4		25.2%	28.3%	35.1%
継続事業当期利益成長率 ※4		2.1%	28.9%	37.3%

※1：継続事業は固定資産譲渡益を除くスタジオ事業及びフィットネスから生じる損益を集計しています。

※2：2022年9月期に譲渡した固定資産譲渡益を非継続事業からの収益として集計しています。

※3：2022年9月期営業利益から固定資産譲渡に伴い発生した収益及び費用を控除した利益

※4：固定資産譲渡益を除く継続事業からの営業利益および当期利益の成長率を計算しています。

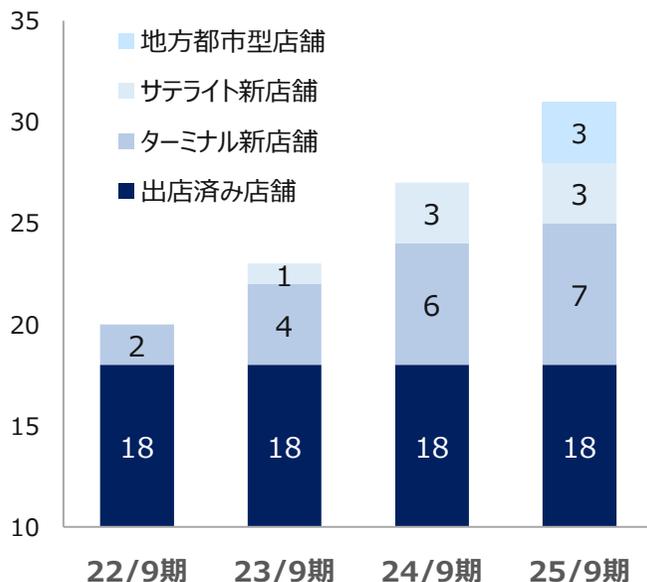
当面は大都市圏への出店を強化、主要市場の増大する需要を取り込む 営業利益率は19%以上、成長率も20%～26%と高成長を継続

(単位：百万円)	22/9期	23/9期	24/9期	25/9期
売上収益	5,057	6,377	7,466	8,490
売上収益成長率		26.1%	17.1%	13.7%
営業利益※	992	1,255	1,543	1,905
営業利益率	19.6%	19.7%	20.7%	22.4%
営業利益成長率		26.4%	22.9%	23.5%

※営業利益から固定資産譲渡に伴い発生した収益及び費用を控除した利益。



フォトウエディングサービス店舗数推移



事業戦略

- 成長するフォトウエディング市場の中でも**伸びしろの大きい大都市圏においてターミナル店舗・サテライト店舗の新規出店を強化**、増大するニーズを確実に取り込む
- 様々な「**フォトウエディング+α**」の**商品を充実させる**ことで顧客の満足度を高め、顧客単価向上施策を行っていく
- 都市型店舗と繁閑時期が異なる**リゾート店舗**を活用し、繁閑の差を抑え年間を通じた稼働率を向上させる等の安定収益獲得施策を行っていく
- オンライン接客や衣装管理のセンター化などにより**店舗業務の最適化を行い、従業員一人当たりの生産性向上を図ると同時に地方都市展開のインフラを整備**する

店舗収益モデル

- ターミナル店舗**
大都市圏ターミナル駅に出店、年間売上高400百万円前後、店舗営業利益率30%
- サテライト店舗**
ターミナル店舗の沿線近郊に出店、年間売上高200百万円前後、店舗営業利益率30%
- 地方都市型店舗**（25/9期以降に展開）
センターオペレーション化等により小規模商圏に対応、年間売上高150百万円前後、店舗営業利益率30%

※当資料に掲載の中期経営計画の業績関連数値は2022年11月4日付「2022年9月期決算及び中期経営計画説明資料」に掲載の内容と同一であり、2023年9月期の業績予想の修正による影響は織り込んでいません。

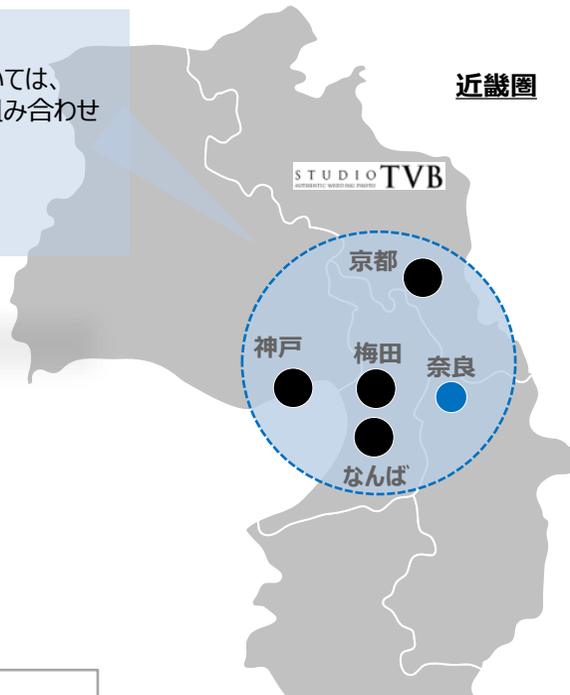
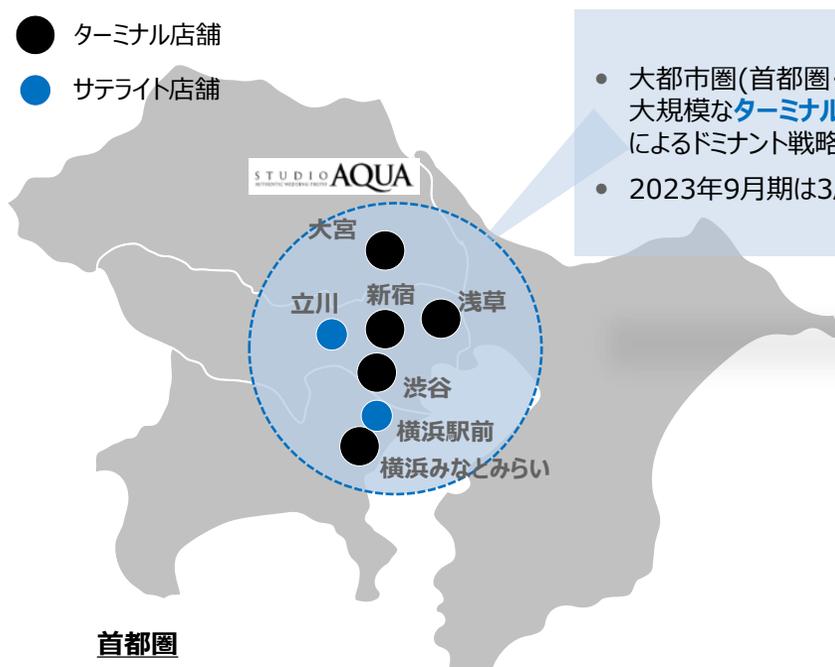
全国展開によるフォトウエディングニーズの捕捉 (1/3)

大都市圏においては「ターミナル店舗×サテライト店舗」による
ドミナント戦略を推進

大都市圏におけるドミナント戦略

- ターミナル店舗
- サテライト店舗

- 大都市圏(首都圏・近畿圏・中部圏等)においては、大規模なターミナル店舗とサテライト店舗の組み合わせによるドミナント戦略を図っていく
- 2023年9月期は3店舗の出店を予定



ターミナル店舗の収益モデル

年間売上高	: 4.0億円程度
営業利益率	: 30%超 (対売上高)
出店コスト	: 1.0~1.2億円程度
投資回収期間	: 12カ月~18カ月程度

サテライト店舗の収益モデル

年間売上高	: 2.0億円程度
営業利益率	: 30%超 (対売上高)
出店コスト	: 0.7~0.9億円程度
投資回収期間	: 12カ月~18カ月程度

主な大都市圏店舗出店候補地

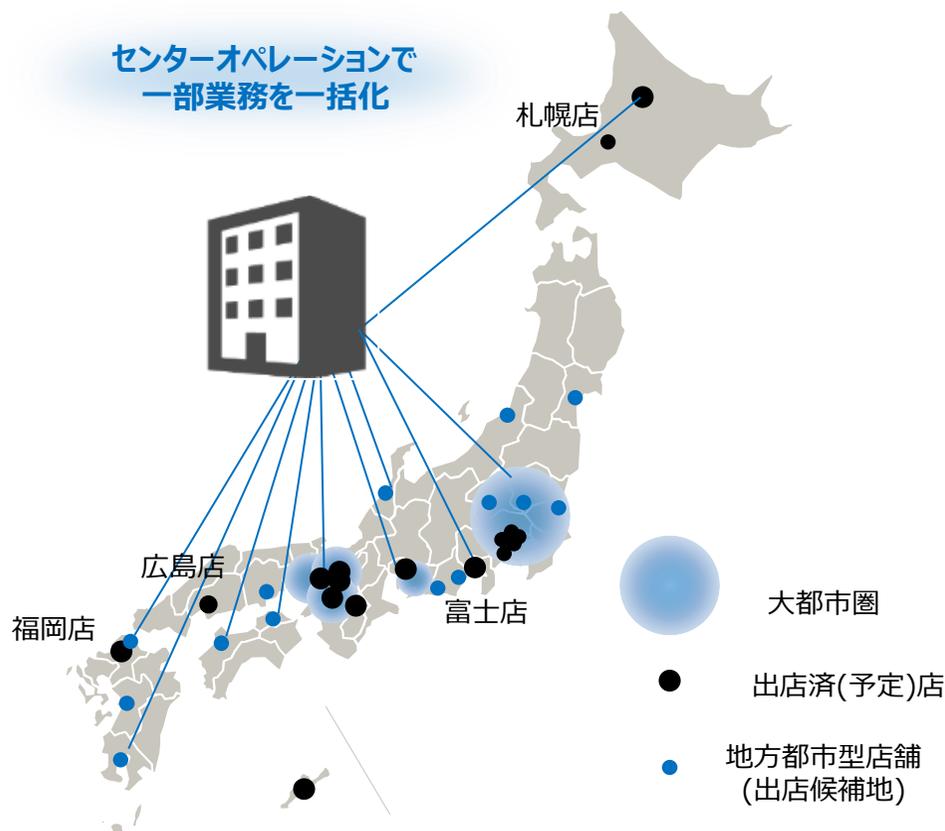
品川駅、千葉駅、池袋駅、日本橋、新宿駅東口、銀座駅、上野駅、川崎駅、町田駅、船橋駅、柏駅、等

注 : 2023年6月末時点の情報に基づく
収益モデルの営業利益率は、本社費の配賦考慮前

全国展開によるフォトウエディングニーズの捕捉 (2/3)

センターオペレーションを活用し店舗の出店コストを引き下げること、 地方都市型店舗の出店を推進 (25/9期～)

地方都市型店舗



- 店舗数の増加に伴い、接客業務、衣装選びなどをオンラインを活用し順次センターオペレーション化。店舗あたり所要人員、所要スペースなど、必要となる店舗リソースを省力化させることで高収益性を確保する方針

主な地方都市型店舗出店候補地例

○大都市圏ターミナル同等 (売上2～3億円超) 店舗候補地

札幌 (2023/4/29出店)、広島(2023/8出店予定)、仙台

○それ以外(売上1億円～)の店舗候補地例

岡山、高崎、宇都宮、浜松、静岡、北九州、水戸、熊本、新潟、金沢、高松、松山、鹿児島、等

地方都市型店舗の収益モデル

年間売上高 : 1.5億円程度
 営業利益率 : 30%超 (対売上高)
 出店コスト : 0.5億円程度
 投資回収期間 : 12カ月～18カ月程度

注 : 2023年6月末時点の情報に基づく
 収益モデルの営業利益率は、本社費の配賦考慮前

全国展開によるフォトウエディングニーズの捕捉 (3/3)

魅力ある撮影プラン開発、閑散期での需要獲得を狙い

全国各地の集客力の高い観光地へ出店、高まりつつある国内リゾート需要にも対応

リゾート型店舗

STUDIO SUNS (沖縄・宮古島)



STUDIO SOLA (美瑛)



リゾート型店舗の戦略的意義

- 都市型店舗の閑散期(夏季および冬季)の需要を埋める効果
 - 夏季の北海道・沖縄など、ロケーションの魅力活用
- 繁忙ピーク(桜・紅葉の時期)の長期化による稼働率の一層の向上
 - 避暑地等の桜・紅葉の時期ずれを都市型店舗からの人員移動で対応
- フォトグラファーの創造性を高め、撮影プランの選択肢を増やす効果

主なリゾート型店舗出店候補地例

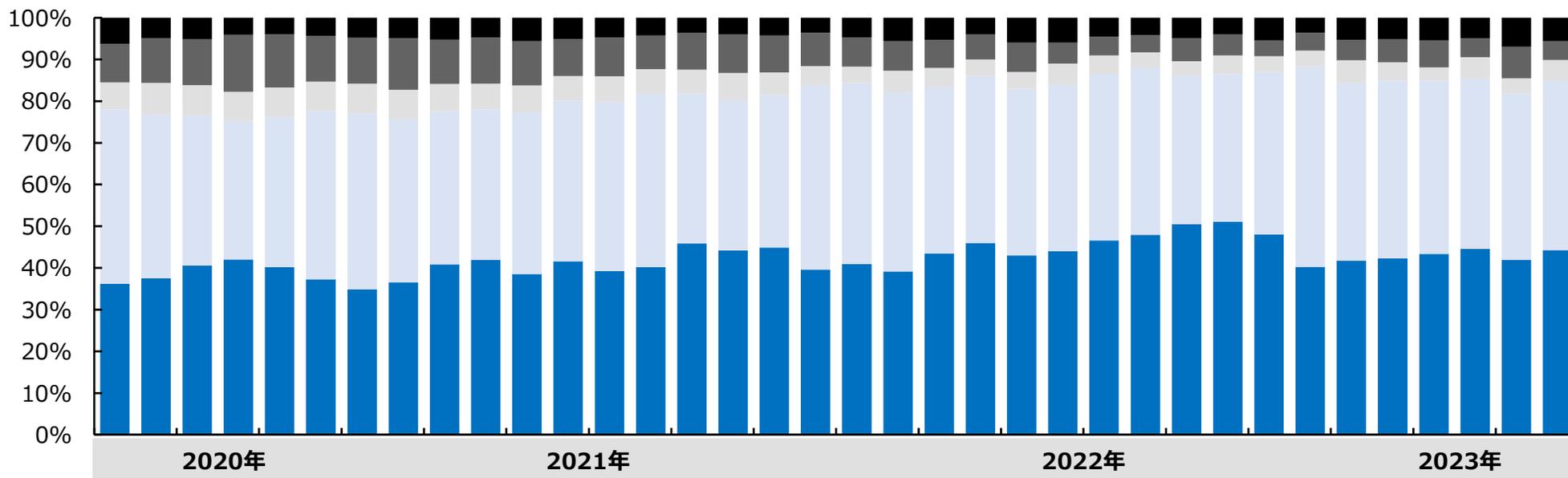
- | | |
|-----|------------------------|
| 北海道 | : 美瑛(出店済)、小樽、函館 |
| 首都圏 | : 軽井沢(出店済) 日光、鎌倉、熱海 |
| 東海 | : 伊勢志摩 |
| 関西 | : 琵琶湖、淡路島、城崎温泉、尾道 |
| 九州 | : 長崎、奄美大島 |
| 沖縄 | : 沖縄(出店済) 石垣島、宮古島(出店済) |

多様化するウエディングニーズの「写真」を軸とした取り込み（1/4）

コロナ禍において結婚に対する価値観の変化が加速 未定を除く回答者に占める撮る結婚式のみ（ナシ婚）の比率は約半数

来店客の挙式予定に関するアンケート調査

■ 撮る結婚式（結婚写真のみ） ■ 挙式+披露宴 ■ 挙式のみ ■ 未定 ■ 無回答



コロナ禍によるマーケットの変化

- コロナ状況下において、「撮る結婚式」(結婚写真のみ)の利用割合が加速
当社利用の顧客のうち、挙式・披露宴の実施割合はコロナ前の約60%が約40%に低下、一方で結婚写真のみの利用割合が45%程度まで増加
- 挙式・披露宴の実施組数は一部で回復しつつあるものの、結婚に対する価値観の変化が加速し、フォトウエディングに対するニーズが高まっている

マーケットの変化への当社の対応

- 従来からのナシ婚層の取り込みに加え、コロナ状況下での顧客の思考にフィットし、新たな顧客を取り込んでいることで、継続的な成長を実現
- 和洋2着プランやスタジオ+ロケ、フォトジェニックジャーニーなど、挙式・披露宴を行わない顧客のニーズを満たす商品を拡充
- コロナ禍においてオンライン接客をいち早く導入することで非接触での受注獲得を進めるとともに、フォトプランナーの業務効率化を実現

多様化するウエディングニーズの「写真」を軸とした取り込み（2/4）

挙式・披露宴業者での撮影層、ナシ婚層を主なターゲットとして取り込み、 フォトウエディング市場の更なる拡大、件数獲得を目指す

フォトウエディング業界の構造（万組）*1

婚姻組数 (58.6)	式あり (38.6)	別撮りあり (24.4)	専門業者で撮影(8.2) 挙式・披露宴業者で撮影(16.2) *2	結婚イベントへの「こだわり」の高まり
		別撮りなし (13.6)	「結婚式」に対する価値観の変化	
	式無し (20.6)	フォトあり (6.4)		
		フォト無し (14.1)		

今後新たに開拓していくターゲット市場

当社の現状のターゲット市場 *3
市場規模248億円、組数14.7万組

今後新たに開拓していく主なターゲット市場

- ①（式あり、別撮り無し）組数13.6万組
「式なしへ移行する可能性のある層」に対して、「写真を中心とした選択肢を充実」させていくことで取り込んでいく
- ②（式場・披露宴業者による施行）組数16.2万組
フォトウエディングに式場・その他業者を利用している、「結婚というイベントへのこだわりの高い層」に対して、「ニーズを満たすサービスを充実」させていくことで取り込んでいく

注1：2018年時点の数値。組数の単位は万組、小数点第二位を切り捨てし表記。

かかる推計は、一定の前提の下、外部の統計資料や公表資料を基礎として当社が推計したものであるが、基礎となる統計資料や推計には固有の限界があるため、実際の市場規模はかかる推計値と異なる可能性がある

注2：(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシィ結婚トレンド調査（2018）」の撮影依頼先アンケートおよびスタジオ・ロケーション撮影実施割合アンケートより計算し、式場・その他利用割合66.3%、専門業者利用割合33.7%として計算。詳細はP.53参照

注3：撮影単価 169千円（(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシィ結婚トレンド調査（2018）」のスタジオ撮影単価159千円とロケーション撮影単価176千円の平均値）
×ターゲット組数（6.4万組+8.2万組=14.7万組）。詳細はP.53参照

出所：厚生労働省「令和元年（2019）人口動態統計月報年計（確定数）の概況」、(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシィ結婚トレンド調査（2018）」、(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ブライダル総研 結婚総合意識調査（2018）」、(株)ウエディングパーク「ナシ婚に関する実態調査（2018/12/17）」

多様化するウェディングニーズの「写真」を軸とした取り込み（3/4）

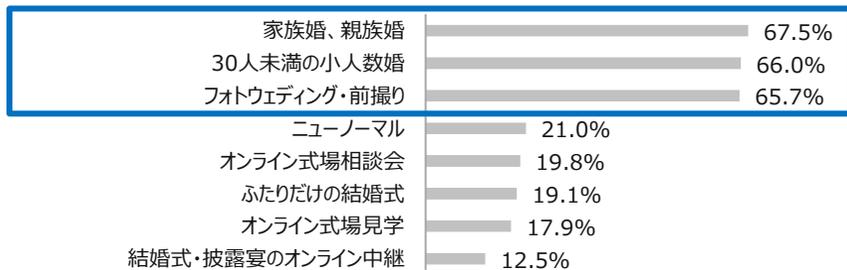
ウェディング領域の全てのコンテンツを集約した「写真」を軸に

「コト＝体験」も備えた様々なサービスを提供、ニーズを取り込み単価を向上させる

コロナ収束後に引き続き人気が高まっていくスタイル

Q. コロナ収束後も、引き続き人気が高まっていくと思われる結婚式のスタイルを選んでください

(回答者=ウェディング業界従事者329名、複数回答) *1

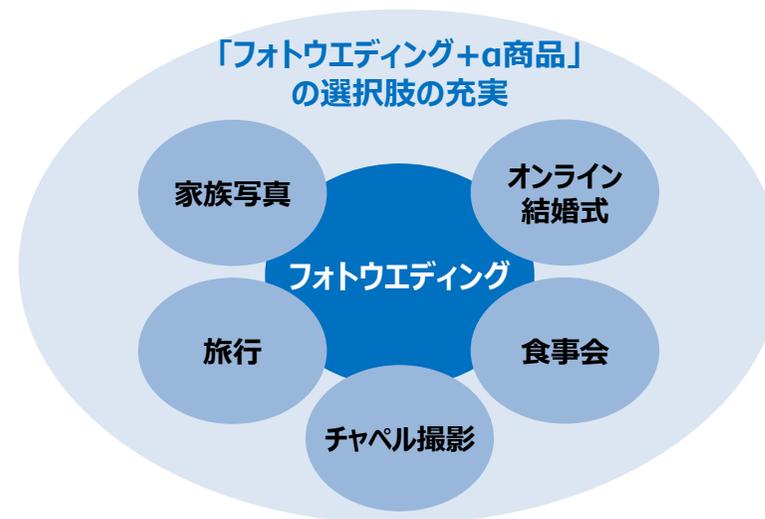


- 従来型の結婚式・披露宴は残りつつも、ニーズの多様化を捉えた「写真」を中心とするスタイルの存在感はさらに増していく

従来型の結婚式・披露宴

写真を中心とする結婚式のスタイル

フォトウェディングプランの充実と、単価の向上



単価の向上

平均単価は継続して向上（2017年9月期=100として指数化）



注1 出所：(株)くふうカンパニープレスリリース（2020/11/20）

多様化するウエディングニーズの「写真」を軸とした取り込み（4/4）

「写真」に対する消費者需要の変化をいち早く察知、対応したサービスを展開、 新たなニーズを逃すことなく取り込んでいく（新たな選択肢の例）

フォトジェニックジャーニー（旅行×フォトウエディング）

- 結婚式や新婚旅行が行えなくとも、「結婚の写真は残したい」・「素敵なロケーションで撮影したい」というニーズに応える、各地への旅中にフォトウエディングを行うサービス



- コロナ禍以降の国内リゾート人気の高まりを受け、リゾート型店舗でのフォトジェニックジャーニーが増加中
- 期間限定店舗を含めたリゾート地の撮影拠点を増やしつつ、国内外の顧客に新たな「旅行×フォトウエディング」を提案

フォトパブリックウエディング（オンライン×フォトウエディング）

- フォトウエディングにオンライン結婚式を組み合わせ、写真撮影を中心にすることでしっかりとした写真を残しつつ、家族や親族、親しい友人に花嫁姿で結婚報告を行える、「モノ」と「コト」を兼ね備えたサービス

家族フォトウエディング（家族×フォトウエディング）

- 大切な家族と一緒に、ウエディング姿で思い出に残る時間を過ごす
- スタジオでの撮影に加え、ロケーション撮影等のオプションも可能



チャペルフォトプラン（チャペル×フォトウエディング）

- チャペルでの本格的なフォトウエディング
- 貸切のため、ご家族だけのフォトウエディング、新郎新婦らしいフォトウエディングが可能
- 全国各地の40超のチャペルと提携



トレンドに即したサービス展開による新たな消費者ニーズの取り込み（1/3）

HAPISTAの事業展開を加速、ウエディング以外のライフイベント領域を強化 23/9期より出店ペースを上げ、多店舗展開を本格化へ

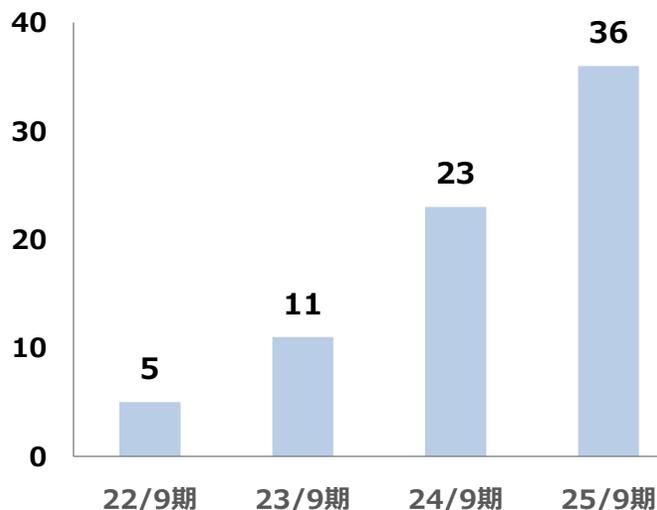
（単位：百万円）	22/9期	23/9期	24/9期	25/9期
売上収益	173	448	1,136	2,063
売上収益成長率		158.4%	153.5%	81.7%
営業利益	-9 ※1	-32 ※2	18	204
営業利益率	-5.2%	-7.1%	1.6%	9.9%
営業利益成長率		-	-	974.4%

※ 1 営業利益から固定資産譲渡に伴い発生した収益及び費用を控除した利益。

※ 2 日本基準からIFRSに調整するにあたり、23年9月期は▲21百万円の差異を認識しています。



アニバーサリーフォトサービス店舗数推移



事業戦略

- ライフイベント領域における事業強化として、多店舗展開を開始したアニバーサリーフォトサービスの「HAPISTA」の出店を加速、**2026年9月期末までに累計50店舗とし、フォトウエディングに次ぐ収益の柱に育てる**
- 既存の子供写真に満足していない顧客層のニーズを満たすとともに、七五三にとどまらない、家族でリピートしたくなるHAPPYな体験を得られるフォトサービスを提供
- 2023年9期以降大都市圏を中心に**出店ペースを加速。**2024年9月期中に収益基盤を固める**
- 2024年9月期までは先行コストが重く営業利益率は低い、2025年9月期以降はフォトウエディングを上回る営業利益の成長率を見込む

店舗収益モデル

- 当計画期間中は関東・関西の大都市圏を中心にドミナント展開し事業モデルとブランドイメージの醸成を図り、その後地方にも展開
- 年間売上高は75百万円前後、店舗営業利益率30%

※当資料に掲載の中期経営計画の業績関連数値は2022年11月4日付「2022年9月期決算及び中期経営計画説明資料」に掲載の内容と同一であり、2023年9月期の業績予想の修正による影響は織り込んでいません。

トレンドに即したサービス展開による新たな消費者ニーズの取り込み (2/3)

フォトウエディングで培った技術・ノウハウを活用し、「ありのまま」を撮影する 高品質なアニバーサリーフォト事業 (HAPISTA) を出店、拡大させていく

一般的な「家族写真」と一線を画すアニバーサリーフォト事業

一般的な 家族写真スタジオ

- お宮参り、七五三等のタイミングで、正装した上でスタジオで撮影
- 画角やポーズ等はどの家族であってもおおよそ同じになる
- 照明はスタジオ照明

「ありのまま」を 撮影する アニバーサリーフォト (HAPISTA)

- フォトウエディングで培った技術・ノウハウを活用
- オリジナルの衣装作成や、ロケ撮影も行う
- 仕掛け等を活用し、定められた立ち位置、ポーズで撮影するだけでなく極力**自然光を取り入れた、ありのままの表情**を撮影する



中期経営計画における今後の事業展開

- ウエディング以外の**ライフイベント領域での事業拡大の第一手**として多店舗展開へ移行
- 2023年9月期以降に出店ペースを加速、**2026年9月期末までに累計50店舗の出店を計画**
- HAPISTAの魅力を活かした多彩なオプション、高品質な体験、写真サービスを提供
- 衣装のバリエーションを増やし、和装のみならず洋装も取り入れ、また、ロケーション撮影も実施
- **フォトウエディングで構築した人材育成システムを活用**、子供の自然な動きや表情に柔軟に対応できるプロフェッショナルを育成、**既存の子供写真に満足しない顧客層のニーズを満たすサービスを提供**



トレンドに即したサービス展開による新たな消費者ニーズの取り込み (3/3)

成人式フォトサービス『NALU (ナル) 』を開始、事業化に着手 入国規制緩和を受けてインバウンド顧客の撮影を再開、新規受注活動も再開へ。

成人式フォト



- プリントシール機トップシェアのフリー株式会社との共同開発商品
- フォトウエディングで培ったヘアメイク・着付け・撮影技術と、フリー株式会社の画像調整技術、若年女性へのマーケティング力を活かし、**これまでに無い、新たな成人式フォトサービスを展開**
- 若年女性に馴染みのある画像調整が、**その場でお客様ご自身で可能**
プリントシール機ともカメラアプリとも異なる、**成人式フォトに合わせた「自然な仕上がりに**」
また、撮影後の画像調整の効率化にも貢献

インバウンド再開へ向けた取組

- コロナ禍以前は香港に事務所を置き、2019年9月期のインバウンド売上高（国外居住者からの受注によるサービス提供に伴う売上高）は香港を中心に約93百万円
- コロナ前から主要な顧客獲得ルートとなっていた**香港最大のウエディングイベントへの出展も2023年6月より再開**
- 香港に加えて**台湾へのイベント出展も計画中**
- 中国本土からの旅行客数は回復が遅れているものの、市場規模と今後の回復を踏まえ、**中国本土でのマーケティング活動を開始。香港・台湾以上の顧客獲得を想定し**、受注・撮影の受入態勢の強化を進行
- 訪日外国人に人気の浅草で**インバウンド向け新業態の店舗を開店**（第4四半期）予定、ウエディングフォト以外の需要も取り込む



高度なフォト技術をコアにしつつ、
いつまでも残したい「写真」と、
心に残る「感動体験」をリアルなサービスで提供し、
様々なライフステージでの「思い出づくり」の場を
提供する「ライフフォトカンパニー」へ

フォトウエディング
リーディングカンパニー

現在

ライフフォトカンパニー

フォトウエディング
リーディングカンパニー

フォトウエディング事業の成長

アニバーサリーフォト事業の成長

新たなニーズ（成人式フォト、ペット写真等）に応える新規事業

カンパニー・ハイライト

当社フォトウエディングの特長・強み

デコルテはフォトウエディング専門の仕組み、オペレーションを一貫して構築
結果として安定して高品質なサービスと、高利益率を両立させることが可能



主な競争要因	撮影実績 口コミ評価 SEO SNS露出	プランの豊富な選択肢 高品質な写真 リーズナブルな価格	フォトウエディング専門のプロフェッショナルスタッフ		
			豊富な衣装・アクセサリ	専属のきめ細かなヘアメイクとアテンド	フォトウエディング専用スタジオ



集客(90%以上が自社サイト経由)から撮影に至る仕組み、オペレーションを一貫して自社で構築
多くのフォトウエディング専門フォトグラファー、ヘアメイクアップアーティストを自社で雇用

他のフォトウエディング事業者	外注依存	専門のプロフェッショナルを他社・フリーランスに依存 自社で実施する場合も小規模で、集客力に限界あり
結婚式・披露宴事業者	専門のプロフェッショナルを他社・フリーランスに依存 既存施設を活用する場合は、効率性・生産性に課題あり	外注依存／効率性・生産性に課題

結果として、当社フォトウエディング事業は
営業利益率30%超*、出店時の投資回収期間12カ月～18カ月程度と高い収益性

注：本社費（財務・管理部等の本社機能に係る費用）を除く、店舗での営業利益率

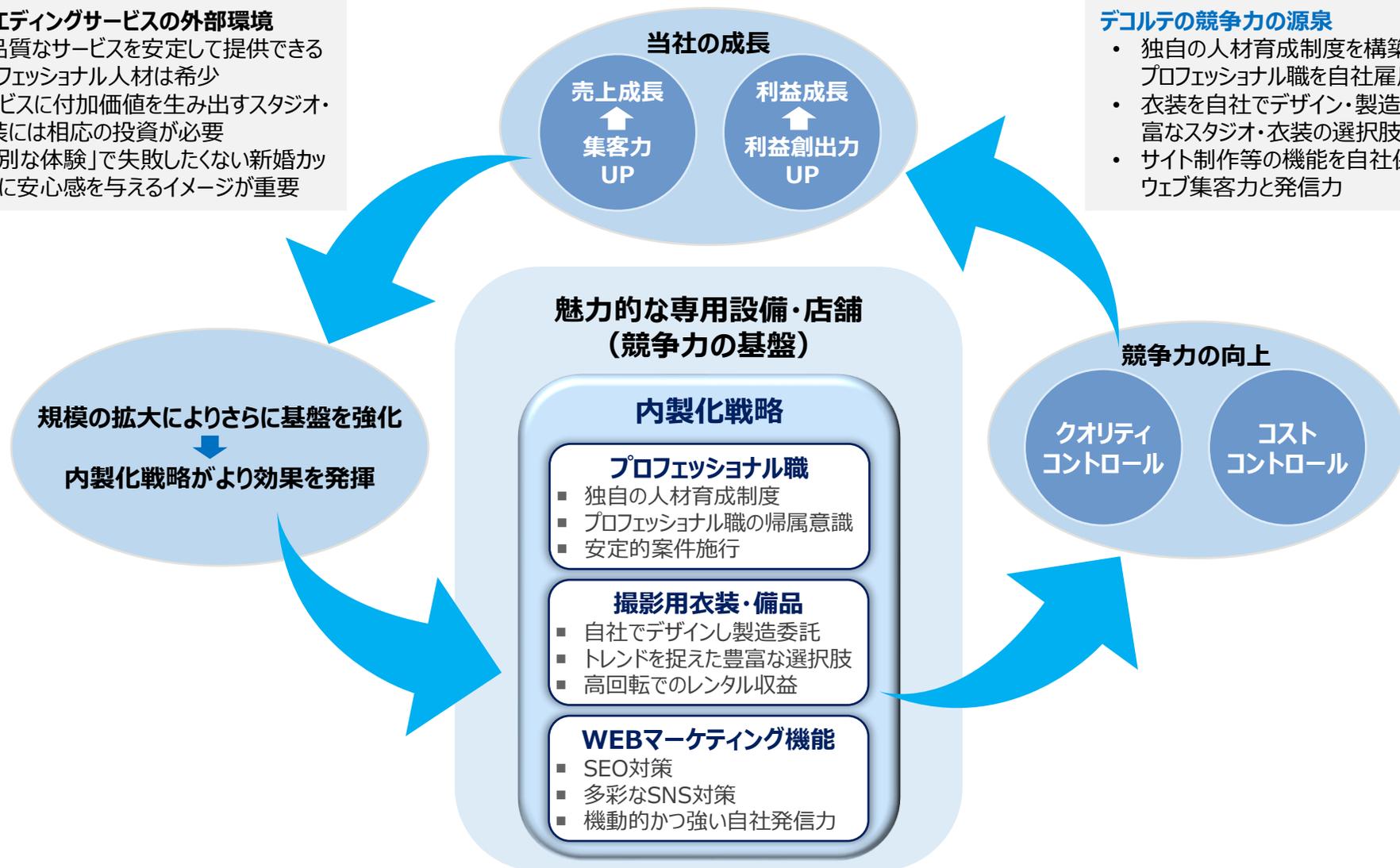
フォトウエディングサービスの競争力の源泉となるWEB集客、専門人材、専用設備・備品を自社で内製化。成長による規模拡大が競争力をより強固に

フォトウエディングサービスの外部環境

- 高品質なサービスを安定して提供できるプロフェッショナル人材は希少
- サービスに付加価値を生み出すスタジオ・衣装には相応の投資が必要
- 「特別な体験」で失敗したくない新婚カップルに安心感を与えるイメージが重要

デコルテの競争力の源泉

- 独自の人材育成制度を構築、多数のプロフェッショナル職を自社雇用
- 衣装を自社でデザイン・製造委託、豊富なスタジオ・衣装の選択肢
- サイト制作等の機能を自社保有、強いウェブ集客力と発信力



注 : プロフェッショナル職は「フォトグラファー職、及びメイクアップアーティスト職」と定義

① プロフェッショナル職の「内製化」

プロフェッショナル職の内製化

当社は独自の教育カリキュラムを有しており、**長年の積み重ねにより**
多数のプロフェッショナル人材を内製化していることが特徴

多数のプロフェッショナル人材の確保

プロフェッショナル職とプランナー人材の推移*1



◆ フォトグラファー、メイクアップアーティストに加えて、新規接客を含む顧客対応を担当する「フォトプランナー」を増員、プロフェッショナル職がより撮影に専念できる体制を構築。これによりプロフェッショナル職の負荷軽減が進んでいる。

フォトグラファー



158名*2

スタジオ・ロケーション・人物撮影における技術を有す

メイクアップアーティスト



161名*2

洋装 / 和装(着付け) / ヘアメイクを1人でこなす技術を有す

人材採用・定着における当社の特徴

1 教育カリキュラム

- 未経験の人材を積極的に採用し、フォトウエディングの専門的なカリキュラムを組むことで、**約2年間**で一般的・標準的な要求に、**一通り独力で対応できるレベルに育つ**教育システムを有している

2 切磋琢磨する場を提供

- 職種的に独立志向の強いフォトグラファー、メイクアップアーティストを正社員として多数雇用しているユニークな環境で**向上心を高め、更に高みを目指す場を提供**

3 個性を発揮しやすい場を提供

- 年間約2.4万組の顧客は、自分の趣味や撮って欲しい写真の嗜好性に合わせて、**フォトグラファーやメイクアップアーティストを選択可能**
- インスタグラム等の**SNSで各プロフェッショナル職がアカウントを保有し**、個性を発揮しながら発信、指名を獲得することでやりがいにも直結

注1：月末時点における人数を記載

注2：2023年6月末時点の人数を記載

当社独自の人材育成体制

従来の業界慣例である師弟制度ではなく、**短期間で数多くの技術を習得できる独自の教育カリキュラムを構築。人材獲得上の優位性に直結**

師弟制度の破壊ともいえる当社人材育成体制

従来の業界慣例（師弟制度）

10年程度で技能習得

師弟制度

師

弟子

技能ごとの役割分担

兼務は行わない

フォト

ヘア
メイク

着付け

当社独自の教育カリキュラム

カリキュラムの概要

- サービス提供に伴う技術及び知識の研修を職種毎（フォトグラファー、ヘアメイク）に実施
- 複数の等級（E1～E3）に応じて研修のレベルを上げ、段階的に実施することで、各社員の**能力に応じてレベルアップを促す**

デコルテ独自の教育制度による「師弟制度の破壊」

2年程度で技能習得

講師

研修

新卒社員

社員

OJT

多くの技能を習得

1人に対応

フォト

ヘア
メイク

着付け

新卒からの育成

- 初心者からの2年間の研修プログラム
- ウェディング技術にフォーカス

数多くの技能を有するプロフェッショナル

- スタジオ・ロケーション撮影
- 和装・洋装×メイク・着付け

E1

未経験入社
1年後

- 一般的・標準的な要求に対して、上位者の指示やマニュアル、研修で教わった内容のもとに対応できる、もしくは習得中の段階
- “**必要スキルを知る**”レベルまで育成

E2

入社
2年後

- “**行動を振り返り習熟する**”ことで、一般的・標準的な要求に、独力に対応できるレベルまで育成

E3

入社後
5年超

- 難しさ・複雑さのある要求に、独力に対応できるような、“**プロとして完成する**”レベルまで育成

技術を高いレベルで均質化

設備・備品（衣装等）の内製化

年間2.4万組超の撮影規模を活かし、**衣装や屋内庭園などを自社制作**

フォトウエディング設備・備品の内製化によるコスト競争力創出 / 収益拡大が可能

衣装内製化の強み

当社の撮影規模

年間**24,000**組の実績



衣装着用数

回のレンタル機会

衣装自社制作

- メーカー仕入れと比較し、**大きくコストを抑えられる**
- トレンド最新作を素早く店舗に導入可能

【当社デザイナー】

流行を反映したデザイン

納品

製造委託

縫製工場
(海外・国内)

顧客へレンタル

- 新作・流行デザインといった付加価値の提供
= **競争力の獲得、収益性の向上**
- 衣装レンタルという**収益源の確保**
- 短期高回転を実現**



フォトウエディング専用スタジオ・屋内庭園の強み

- フォトウエディング専用の**本格的なスタジオ・屋内庭園独立型チャペル**
- 多数の店舗工事実績によりデザイン・調達・改装コストを低減

- 悪天候、気候に左右されず撮影可能**、撮影不可となるリスクの低減
- ヘアメイク直後に撮影可能、撮影地への往復時間や負担が顧客に発生せず。**稼働件数の増加、生産性向上にも寄与**

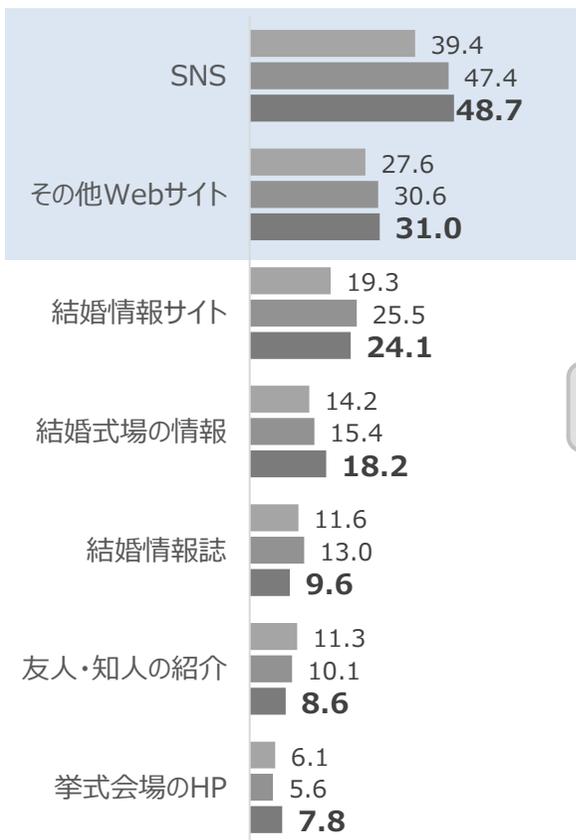


当社のWeb検索/SNS集客力

「特別な体験」となるフォトウェディングは集客が重要。選定に利用される 主な媒体となるサービスサイト、SNSにおいて強みを有している

フォトウェディングサービス選定に利用されている媒体（%）と集客スパイラル

SNS、各社サービスサイトの割合が高い



- ・ 高評価の口コミの蓄積
- ・ 写真の露出



WEB検索における強み

集客の**90%**以上が自社サイト経由

- ・ **Web制作チームを内製化**
- ・ 「フォトウェディング」「前撮り」等のキーワード検索で、各地域において上位を占める

Google検索**上位**

(例)

「東京 フォトウェディング」	1番目
「大阪 フォトウェディング」	1番目
「東京 前撮り」	2番目
「大阪 前撮り」	1番目

(2021年4月16日時点)

集客上の競争力向上
広告媒体への費用支出の抑制

■ 2020年 ■ 2021年 ■ 2022年

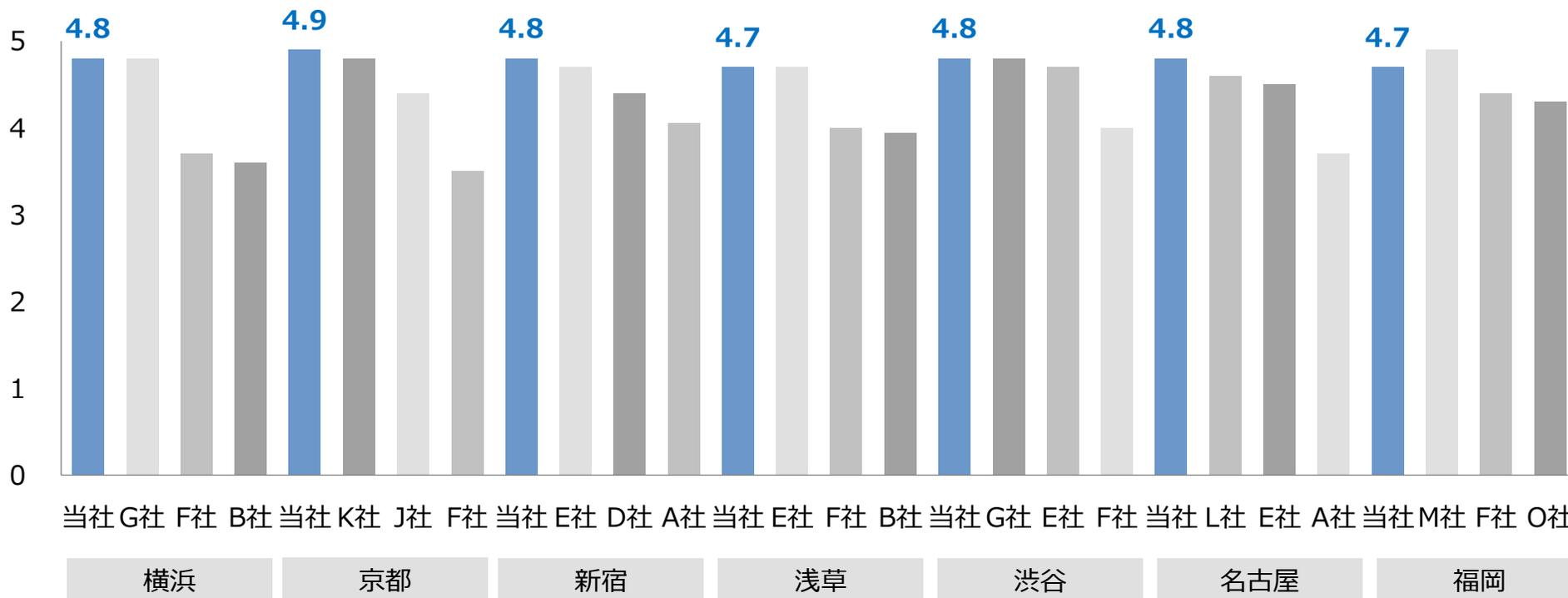
当社サービスへの高い顧客満足度

当社サービスはユーザーからの高い評価を得ている。各種Webサイト・SNS上でユーザー自らによって発信されることにより、当社認知の向上に直結

当社サービスは高い顧客満足度を獲得

当社Google口コミによる評価*一部店舗のみ

(5段階評価平均値)



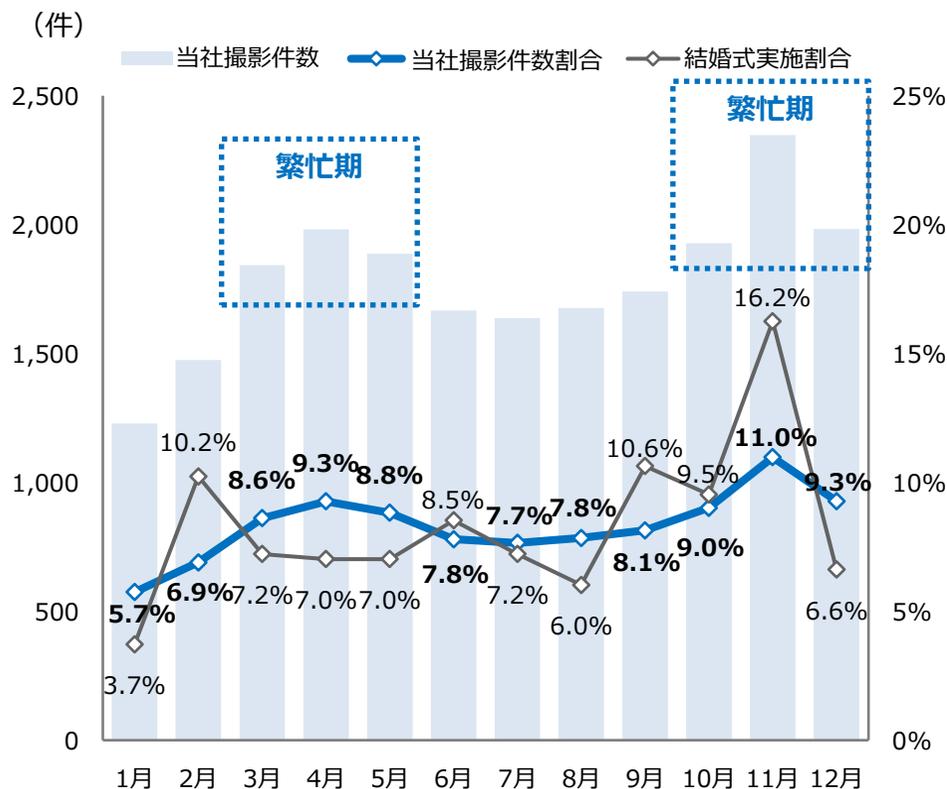
注：2023年7月10日時点の評価

上記7店舗は当社の口コミ件数降順に選択（横浜1,578件、京都1,571件、新宿1,150件、浅草857件、渋谷731件、栄623件、福岡527件）
競合他社は当社「接客前アンケート」2023年6月分の「比較検討しているスタジオ」各店の上位順

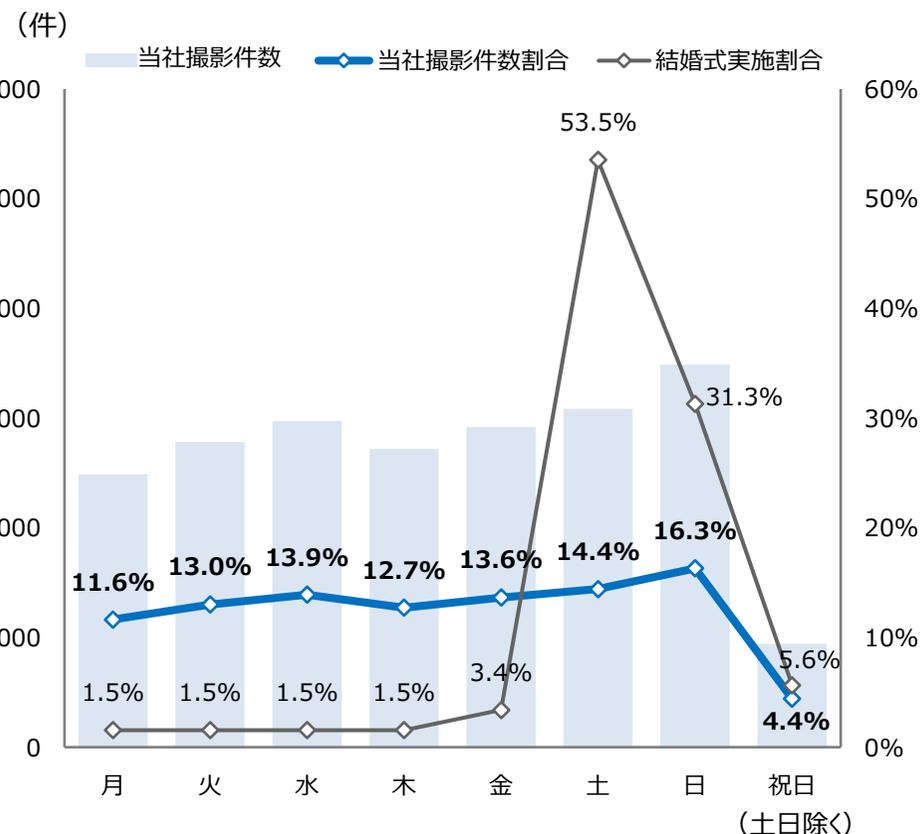
繁忙に対応する効率的な人員配置

結婚式実施時期は繁忙差が大きい一方、当社は曜日別の繁忙差が少ない
また、効率的な人員配置により、繁忙期の需要を取り込むことが可能

月別撮影割合



曜日別撮影割合

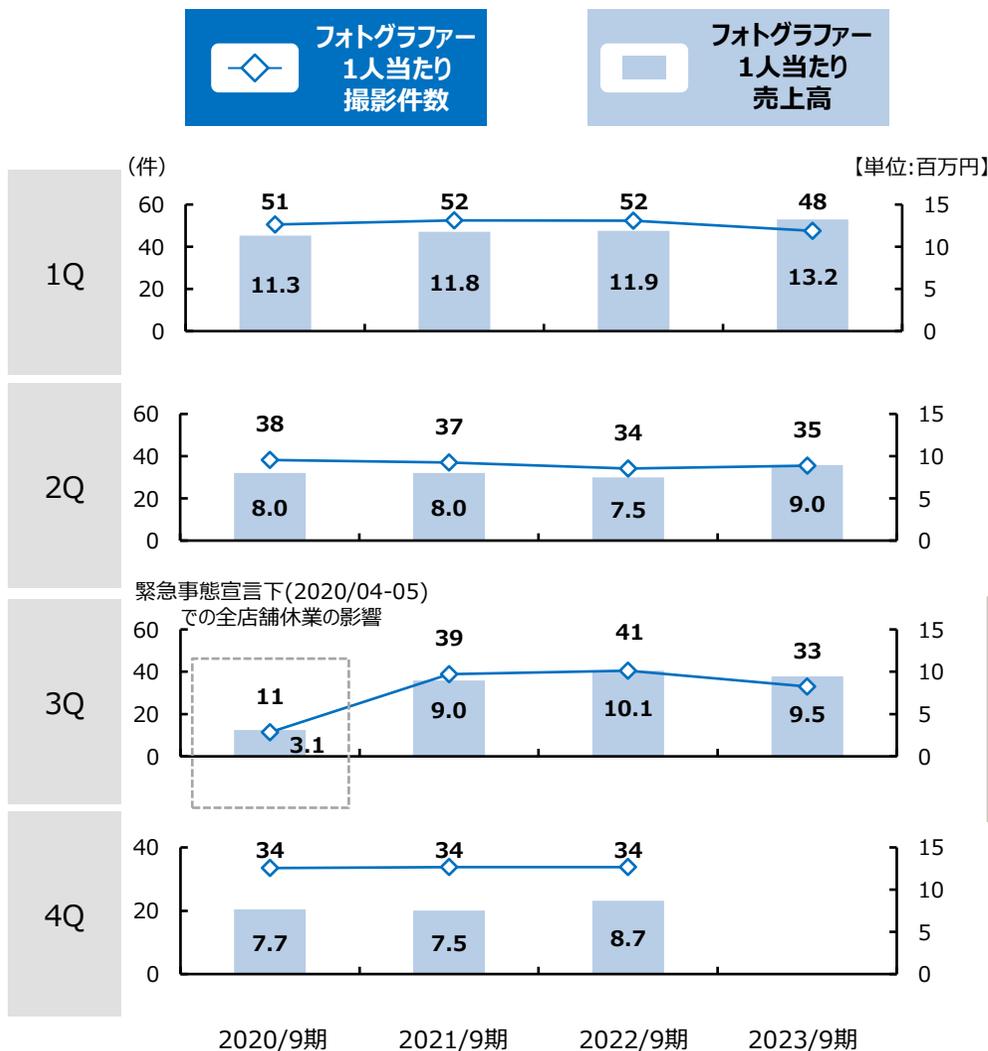


注：結婚式実施割合 = (首都圏でのアンケート調査結果による結婚式実施数 ÷ 首都圏でのアンケート調査数) ÷ (1 - 無回答等の割合)
月曜日から木曜日の間で、結婚式を実施した割合は6.0%とのアンケート調査結果により、それぞれの曜日では全体の1.5%の割合にて実施されたと仮定
施行数は、2018年4月～2020年3月における月別・曜日別の平均値を記載
出所：(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシィ結婚トレンド調査（2020）」

稼働状況、生産性の推移

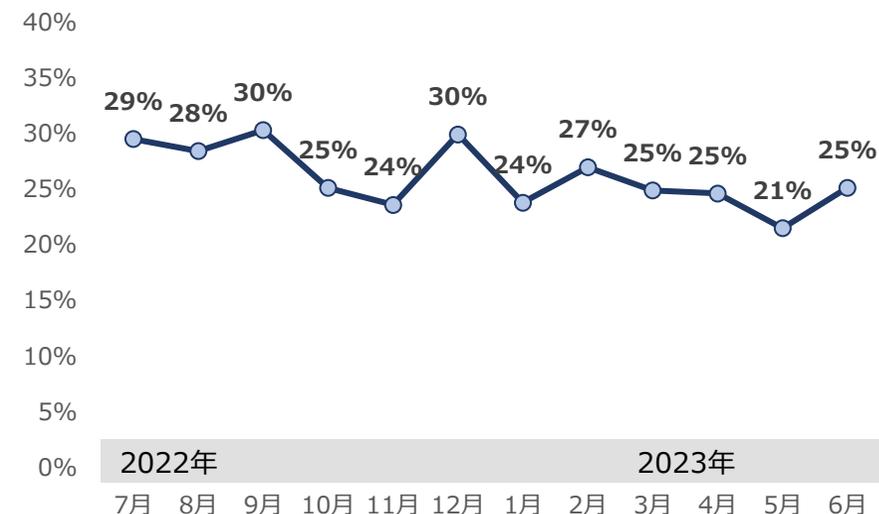
フォトグラファー 1人当たりの売上高は**前期比+6.7%増**
オンライン接客による業務効率化を推進

フォトグラファーの1人当たり売上高及び撮影件数



オンライン接客

契約件数に占めるオンラインでの受注比率の推移



オンライン接客による業務効率化

- 将来的にセンター化することで店舗オペレーションを改善⇒コスト削減
- 新たな顧客層の取込 (遠方顧客・店舗閉店後の相談)

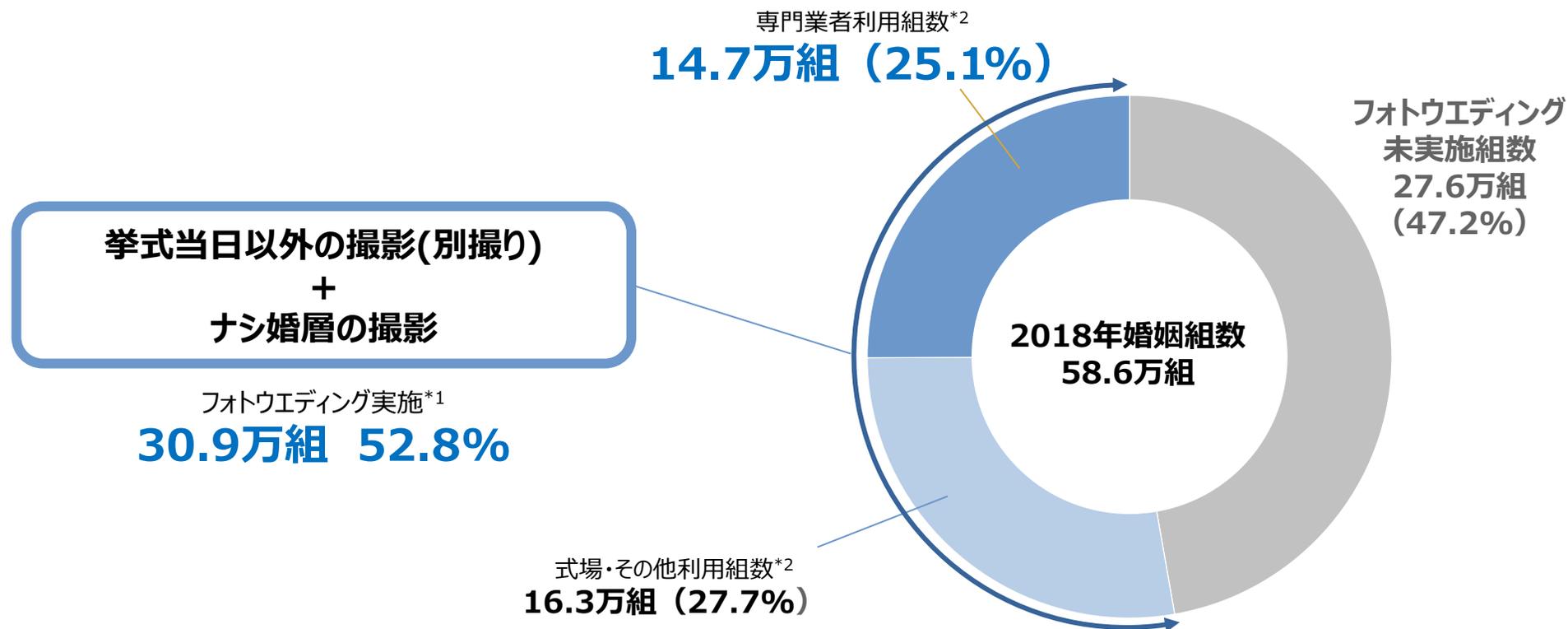
地方都市型店舗出店の基盤整備

ウェディング業界の構造変化

婚姻組数に占めるフォトウエディング実施割合

婚姻組数に占めるフォトウエディング実施率は52.8%と高水準。

当社のような専門業者での撮影実施率は25.1%であり、今後の伸びしろは大きい



注1：2018年時点。挙式ありの撮影実施組数（婚姻組数×挙式割合×別撮り実施率）+ナシ婚の撮影実施組数（婚姻組数×（1-挙式割合）×ナシ婚撮影比率）にて算出

(a) 挙式あり組数のうち、フォトウエディングを行う組数：

・挙式あり組数：全婚姻組数58.6万組（厚生労働省「令和元年（2019）人口動態統計月報年計（確定数）の概況」）

×挙式実施割合64.9%（㈱リクルートマーケティングパートナーズ「ブライダル総研 結婚総合意識調査（2018）」）=38.0万組

・フォトウエディング実施組数：挙式あり組数38.0万組×別撮り実施率64.3%（㈱リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシィ結婚トレンド調査（2018）」）=24.4万組（組数は小数点第二位を切り捨てし表記）

(b) 挙式なし組数のうち、フォトウエディングを行う組数：

・挙式なし組数：全婚姻組数58.6万組－挙式あり組数38.0万組=20.6万組

・フォトウエディング実施組数：挙式なし組数20.6万組×ナシ婚撮影比率31.4%（㈱ウエディングパーク「ナシ婚に関する実態調査（2018/12/17）」）=6.4万組（組数は小数点第二位を切り捨てし表記）

注2：専門業者利用組数：挙式あり・フォトウエディング実施組数×専門業者利用割合+挙式なし・フォトウエディング実施組数

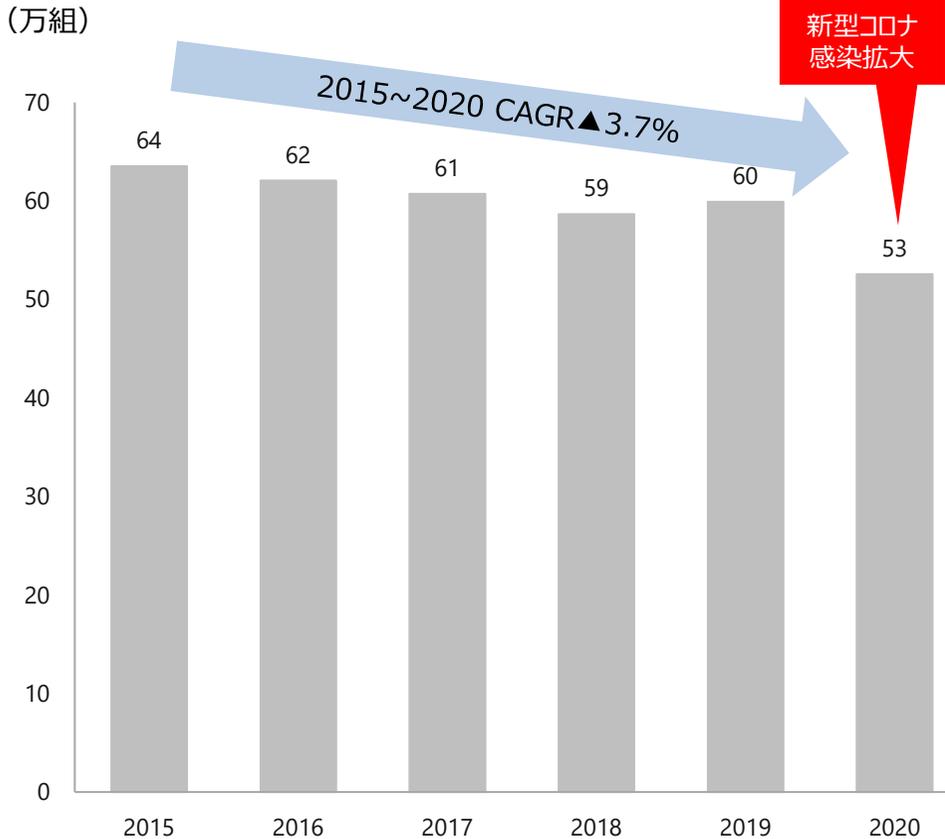
式場・その他利用組数：挙式あり・フォトウエディング実施組数×式場・その他利用割合

上記計算過程における専門業者利用割合、式場・その他利用割合は㈱リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシィ結婚トレンド調査（2018）」を利用して算出し、小数点第二位を四捨五入し表記。詳細はP. 53参照

婚姻組数推移とフォトウエディング市場

婚姻組数は年々減少。一方、フォトウエディング市場の足元の市場規模は約521億円であり、今後も安定的な成長が続く見込み

日本の婚姻組数推移



フォトウエディング市場の市場規模*1



今後の市場拡大要素

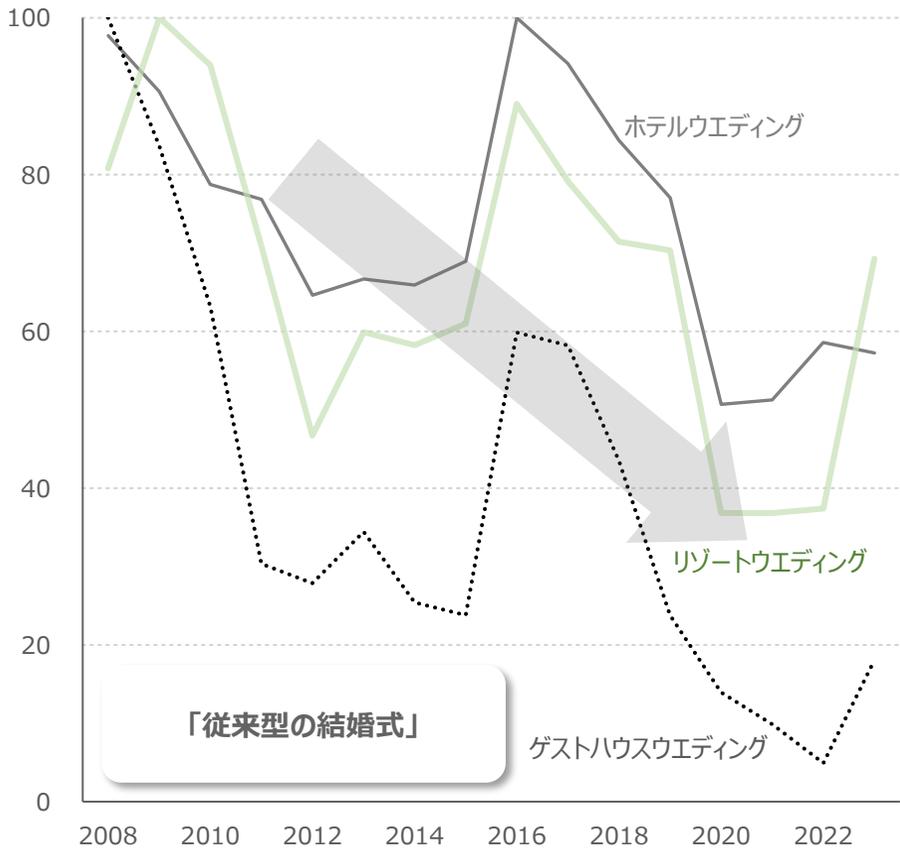
- ① 挙式・披露宴実施者による別撮り実施率の上昇 (⇒P.46)
 - 顧客ニーズを満たすサービスの登場や結婚式当日には撮影できない写真を残したいというニーズが別撮り比率の上昇を後押し
- ② ナシ婚層のフォトウエディング実施ニーズの存在 (⇒P.47)
 - フォトウエディングは挙式と比較し低価格で花嫁体験が可能かつ写真に残ることができるため、結婚式の新しい形として注目

注1：フォトウエディングの国内市場規模は以下の算式により当社で推計
 撮影単価169千円（㈱リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシィ結婚トレンド調査（2018）」のスタジオ撮影単価159千円とロケーション撮影単価178千円の平均値）×フォトウエディング利用組数30.9万組 = 521億円
 かかる推計は、一定の前提の下、外部の統計資料や公表資料を基礎として当社が推計したものであるが、基礎となる統計資料や推計には固有の限界があるため、実際の市場規模はかかる推計値と異なる可能性がある
 出所：厚生労働省「令和2年（2020）人口動態統計月報年計（確定数）の概況」

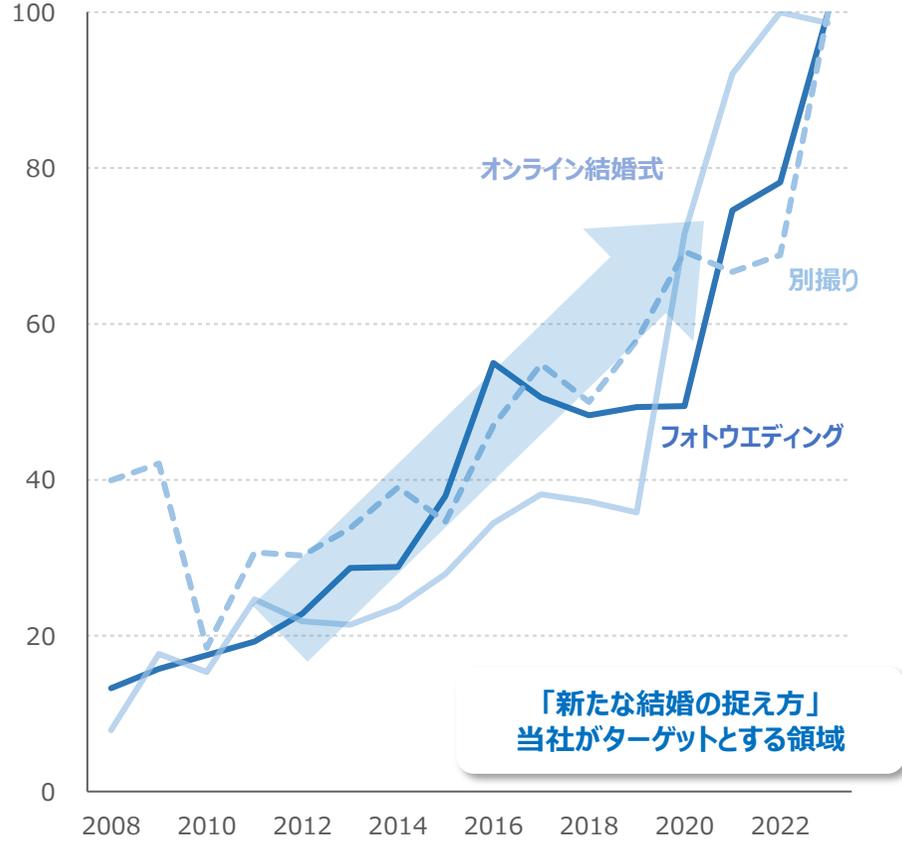
ウェディング業界のトレンド

集合型結婚式への関心は下降傾向。「フォトウェディング」「別撮り」「オンライン結婚式」といった**従来とは異なる形態への関心が高まっている**

従来型結婚式のGoogleトレンド推移



非従来型サービスのGoogleトレンド推移

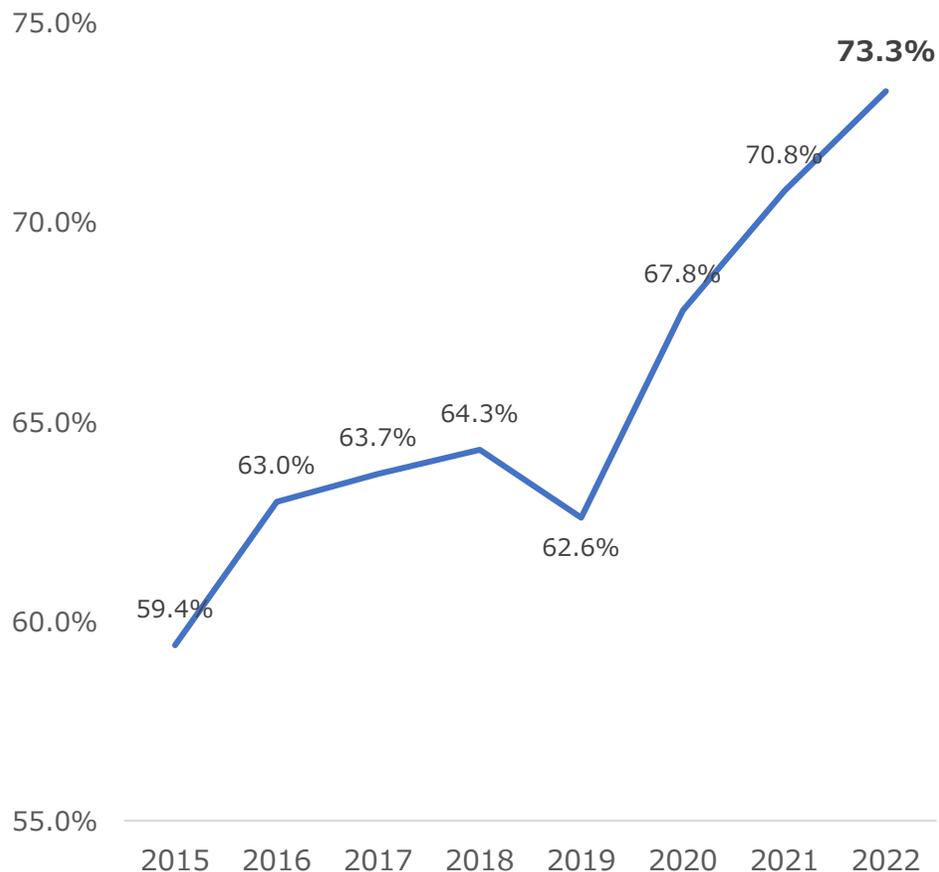


注 : グラフは、各キーワードの2008年～現在における検索数の最大値を100として指数化したもの。0はそのキーワードに対する十分なデータが存在しなかったことを表す
 出所 : Google Trends

挙式・披露宴実施者による別撮り実施率の上昇

別撮り比率は年々上昇。顧客ニーズを満たすサービスの登場、式当日には撮影できない写真を残したいというニーズが別撮り比率の上昇を後押し

挙式・披露宴実施者による別撮り実施率の推移



出所：(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシィ結婚トレンド調査（2015～2022）」

別撮り実施率上昇の背景

周囲に気を遣わず主役になりたいカップルの増加

- 挙式・披露宴当日はゲスト対応などで多忙

結婚式当日には撮影できない写真を残したいというニーズの拡大

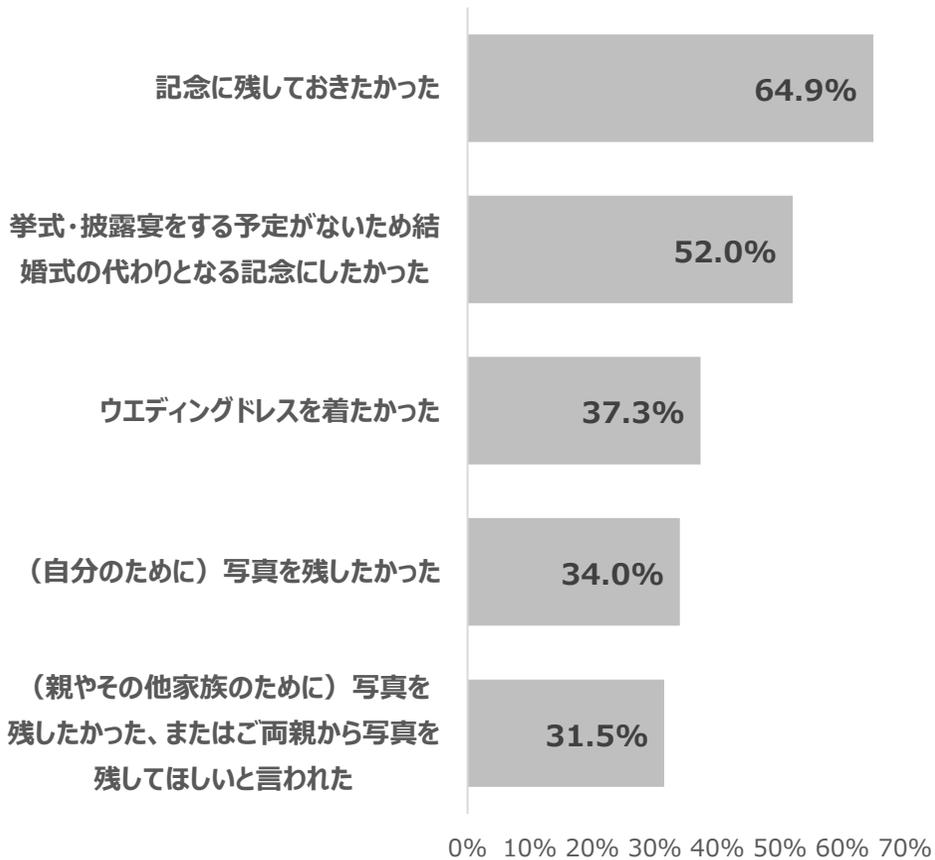
- 衣装やロケーション撮影など、挙式・披露宴当日では撮影できないような写真を記念に残したいというニーズが拡大



ナシ婚層のフォトウエディング実施ニーズの存在

フォトウエディングは挙式と比較し低価格で花嫁体験が可能
また、写真に残すことができるため、結婚式の新しい形として注目されている

フォトウエディングを検討された理由
 (挙式・披露宴未実施層 回答数=598) *1



注1：複数回答有り。全回答の内、上位5項目を記載
 出所：(株)ウエディングパーク「フォトウエディング動向調査2022 (2022/10/6)」

フォトウエディングが提供できる付加価値



ヘアメイク



和装



ドレス

- ・ わくわくする新しいスタイルの撮影で花嫁体験ができる
- ・ 思い出を記念（写真）に残すことができる
- ・ 両親・家族に写真を通じて感謝の気持ちを伝えられる
- ・ リーズナブルな料金で思い出に残る感動体験ができる



リスク情報

リスク情報

当社の成長の実現や事業計画の遂行に重要な影響を与える可能性があるとして認識する
 主要なリスクとその対応策は以下の通りです
 その他のリスクは、有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください

認識するリスク

対応策

1

人材の確保・
育成について

- 今後の事業拡大を進めていくにあたり、優秀な人材を確保するとともに人材育成が重要な課題であると認識しています。
必要とする人材の確保ができなかった場合や中核となる優秀な人材の流出等が生じた場合、人材の育成が図れなかった場合には、出店計画の遅延や既存店舗での運営に支障をきたし、当社グループの財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります

- 人材確保については、グループ全体の「採用責任者」を採用し、採用強化に向け体制を整えました。掲載チャンネル増による母集団の増加、採用フロー見直しによる応募者の途中離脱の低減等の取組を進めています。またコロナ禍による既存ブライダル業態の採用縮小により、当社にとっては採用しやすい環境になっており、積極的に採用活動を実施しています
- 人材育成については、従来の業界慣例である師弟制度ではなく、短期間で数多くの技術を習得できる独自の教育カリキュラムを構築しています。また、人事制度を整え複数の等級に応じて研修のレベルを上げ、段階的に実施することで、未経験で入社した社員の早期戦力化や、各社員の能力に応じて、効率的にレベルアップを促しています

2

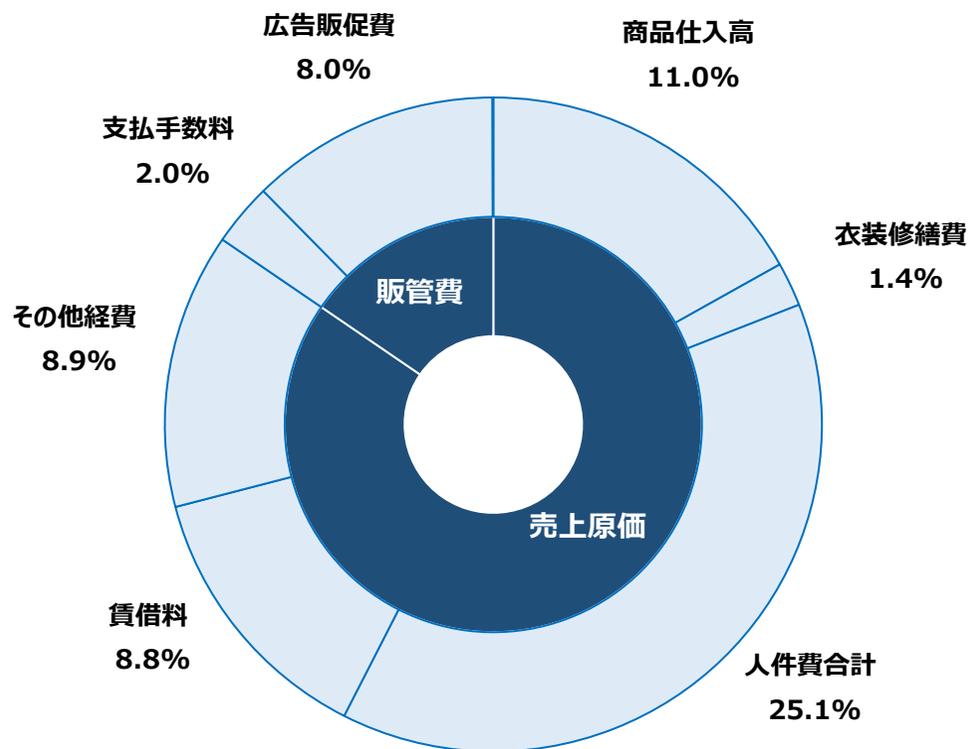
出店について

- 売上収益増大のために出店を積極的に進めてまいります。複数の展開地域で並行して店舗開発を進めているものの、出店立地として適切な候補物件が確保できない場合、出店に必要な人材が確保できない等の理由により出店予定時期までに出不行の場合、又は出店実績が計画と乖離する場合には、当社グループの財政状態及び業績に影響を及ぼす可能性があります。

- 出店候補物件の確保については、当社の展開している各サービスが新規来店をWEBや電話等による事前予約制としていることから、不特定多数の来店や入店のしやすさを重視する他のサービス業や外食産業と異なり、出店立地を商業施設や路面店とする必要がありません。一般的なオフィスフロア等への出店が可能であり、出店立地の選択肢を幅広くとらえることが可能です
- 出店に必要な人材の確保については、上記 1 に記載の通り対応策を進めています。

参考情報

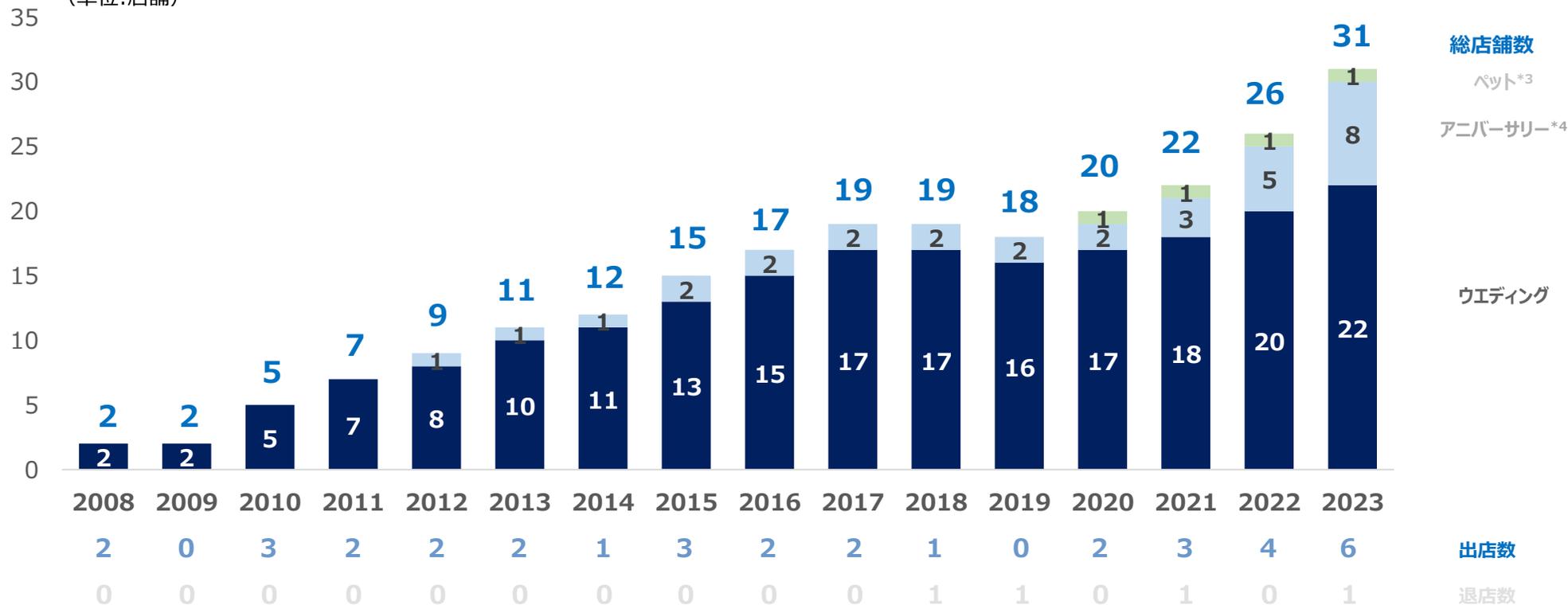
コスト構造（フォトウエディング事業）



注：2021年10月～2022年9月の期間におけるフォトウエディング事業の店舗コスト構造（売上原価+販売管理費）を記載
売上高対比の割合を記載

単年の出店数と店舗数の推移

(単位:店舗)



- 2023年1月にスタジオAQUA横浜駅前店を出店。
- 2023年3月にHAPISTAなかもず店を出店
- 2023年4月にスタジオSUNS宮古島サロン、スタジオAQUA浅草店（移転）、HAPISTA下北沢店（移転）、スタジオSOLA札幌店、HAPISTA尼崎店を出店
- 2023年6月にHAPISTA今福鶴見店を出店

- 2023年1月に「チャペルSUNS」を閉店。
チャペルSUNSは挙式事業の店舗として開店。その後、挙式事業を譲渡したことにより、撮影用チャペルとして利用。
建物の老朽化に加え、近隣の人気チャペルと提携したことにより、顧客のチャペルフォト需要を今後も満たすことができるため閉店を決定。

注1：単年はカレンダーイヤー

注2：2023年は6月30日時点

注3：ペット写真のスタジオは「HAREI神宮前」

注4：アニバーサリーフォトのスタジオは「HAPISTA」

専門業者、式場・その他利用割合及び市場規模の概算方法

2018年婚姻組数の分解*1		2018年フォトウエディング実施組数の分解*1	
式あり	38.0万組 = 全婚姻組数*2 (58.6万組) × 挙式実施割合*3 (64.9%)	別撮りあり 24.4万組 = 式あり組数 (38.0万組) × 別撮り実施率*4 (64.3%)	業者専門 8.2万組 = 式あり・別撮りあり組数 (24.4万組) × 専門業者割合*6 (33.7%) 市場規模*7 138.6億円
		別撮りなし 13.6万組 = 式あり組数 (38.0万組) - 式あり・別撮りあり組数 (24.4万組)	その他 16.2万組 = 式あり・別撮りあり組数 (24.4万組) - 式あり・別撮りあり・専門業者利用組数 (8.2万組) 市場規模*7 273.2億円
式なし(ナシ婚)	20.6万組 = 全婚姻組数*2 (58.6万組) - 式あり組数 (38.0万組)	フォトあり 6.4万組 = 式なし組数 (20.6万組) × ナシ婚撮影比率*5 (31.4%)	業者専門 6.4万組 式なしカップルのフォトウエディングは専門業者 市場規模*7 109.0億円
		フォトなし 14.1万組 = 式なし組数 (20.6万組) - 式なし・フォトあり組数 (6.5万組)	

注1：かかる推計は、一定の前提の下、外部の統計資料や公表資料を基礎として当社が推計したものであるが、基礎となる統計資料や推計には固有の限界があるため、実際の市場規模はかかる推計値と異なる可能性がある。
また、組数は小数点第二位を切り捨てし表記

注2：厚生労働省「令和元年（2019）人口動態統計月報年計（確定数）の概況」より抜粋

注3：(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ブライダル総研 結婚総合意識調査（2018）」より抜粋

注4：(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシイ結婚トレンド調査（2018）」より抜粋

注5：(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ブライダル総研 結婚総合意識調査（2018）」より抜粋

注6：(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシイ結婚トレンド調査（2018）」のアンケート結果より算出

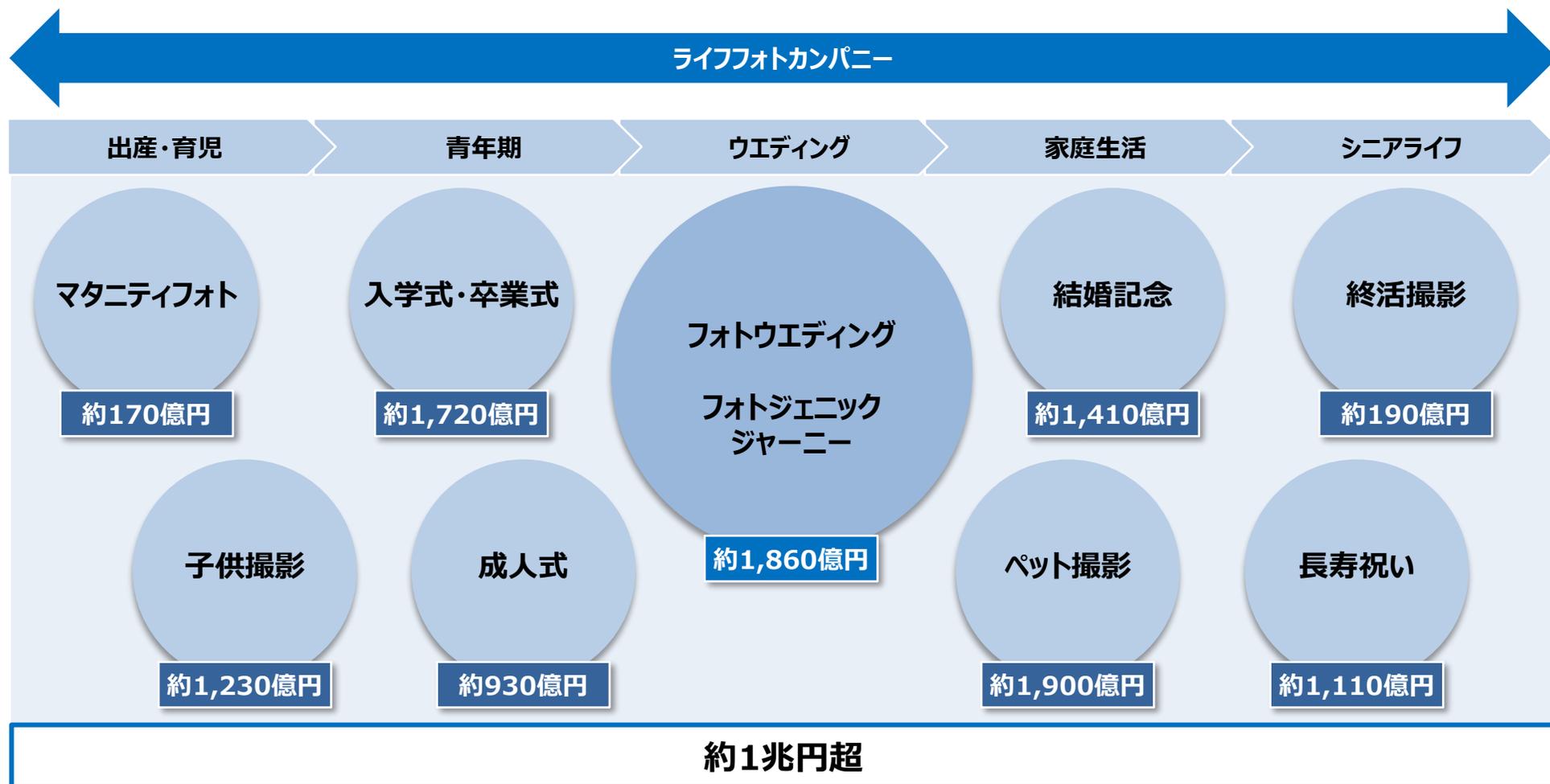
- 別撮りスタジオ撮影時の依頼先・・・専門業者比率：別撮りスタジオ撮影依頼先（全国推定値）のアンケート結果（式場・その他=51.1%+14.3%=65.4%、専門業者=28.7%、無回答=5.9%）*8より、無回答分を除いた比率（式場・その他：専門業者）=（69.5%：30.5%）を使用
- 別撮りロケーション撮影時の依頼先・・・専門業者比率：別撮りロケーション撮影依頼先（全国推定値）のアンケート結果（式場・その他=46.4%+13.4%=59.8%、専門業者=34.3%、無回答=5.9%）*8より、無回答分を除いた比率（式場・その他：専門業者）=（63.5%：36.5%）を使用
- スタジオ撮影とロケーション撮影比率・・・別撮りのスタジオ・ロケーション撮影の実施内容（全国推定値）のアンケート結果（スタジオ撮影=36.7%、ロケーション撮影=41.4%、両方21.9%）より、両方分を除いた比率（スタジオ撮影：ロケーション撮影）=（47.0%：53.0%）を使用
- 別撮り専門業者割合・・・上記算出結果より、スタジオ撮影比率47.0%×専門業者割合30.5%+ロケーション撮影比率53.0%×専門業者割合36.5%=33.7%

注7：市場規模はそれぞれの組数×フォトウエディング単価169千円で算出（フォトウエディング単価はスタジオ撮影単価159千円とロケーション撮影単価178千円の平均値169千円）

注8：式場・その他=会場の専属または提携業者+外部の衣裳店、または衣裳店の紹介・提携先、専門業者=外部の写真屋・カメラマンとして計算

出所：厚生労働省「令和元年（2019）人口動態統計月報年計（確定数）の概況」、(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシイ結婚トレンド調査（2018）」、(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ブライダル総研 結婚総合意識調査（2018）」、(株)ウエディングパーク「ナシ婚に関する実態調査（2018/12/17）」

当社のアプローチする市場（TAM：Total Addressable Market）



注：各TAMの概算値は、P.55以降のとおり最大件数と単価を推計の上で算出したものであり、必ずしも正確な推計ではない可能性がある

各TAMの概算値計算前提 (1/3)

イベント	区分	単価	人数			合計額 (億円)	計算前提 / 出所
			年齢	男女	合計 (千人)		
マタニティフォト		20,000円	0歳	男女	894	179	妊婦の人数=0歳の人数と仮定 人数出所：総務省「人口推計（2019年10月1日現在）」
子供撮影	お宮参り	20,000円	0歳	男女	894	179	*1：桃の節句・端午の節句に関して、0～6歳の子供が1回は 経験すると仮定し、0～6歳の男女の合計の平均値を記載 人数出所：総務省「人口推計（2019年10月1日現在）」
	百日祝い	20,000円	0歳	男女	894	179	
	ハーフバースデー	20,000円	0歳	男女	894	179	
	七五三	20,000円	3歳	女	487	97	
			5歳	男	499	100	
			7歳	女	497	99	
	桃の節句・端午の節句	20,000円	0～6歳	男女	964 ^{*1}	193	
1/2成人式	20,000円	10歳	男女	1,061	212		
合計						1,238	
入学式・卒業式	小学校入学式	20,000円	7歳	男女	1,018	204	*2：年齢別人口に高校進学率をかけて算出 *3：年齢別人口に大学進学率をかけて算出 *4：年齢別人口に短大・専門学校進学率をかけて算出 人数出所：総務省「人口推計（2019年10月1日現在）」 高校進学率出所：文部科学省「令和元年 学校基本調査」 大学進学率 / 短大・専門学校進学率出所： 文部科学省「高等学校教育の現状について」
	小学校卒業式	20,000円	12歳	男女	1,074	215	
	中学校入学式	20,000円	13歳	男女	1,066	213	
	中学校卒業式	20,000円	15歳	男女	1,107	221	
	高校入学式	20,000円	16歳	男女	1,112 ^{*2}	222	
	高校卒業式	20,000円	18歳	男女	1,174 ^{*2}	235	
	大学入学式	20,000円	19歳	男女	667 ^{*3}	133	
	大学卒業式	20,000円	22歳	男女	689 ^{*3}	138	
	短大・専門学校入業式	20,000円	19歳	男女	348 ^{*4}	70	
	短大・専門学校卒業式	20,000円	20歳	男女	352 ^{*4}	70	
	合計						
成人式		50,000円	20歳	男	646	323	人数出所：総務省「人口推計（2019年10月1日現在）」
		100,000円	20歳	女	610	610	
	合計						

各TAMの概算値計算前提（2/3）

イベント	区分	単価	人数			合計額（億円）	計算前提 / 出所
			年齢	男女	合計（千組）		
フォトウエディング		168,500円			586	988	フォトウエディング単価出所：(株)リクルートマーケティングパートナーズ「ゼクシイ結婚トレンド調査（2018）」 （スタジオ撮影単価159千円とロケーション撮影単価178千円の平均値） 人数出所：厚生労働省「令和元年（2019）人口動態統計月報年計（確定数）の概況」
フォトジェニック・ジャーニー		150,000円			586	880	
結婚記念	1年目	15,000円	31歳	男女	535	80	平均結婚年齢が30歳と仮定 人数は、各年齢での男女の人口の平均値に婚姻率をかけて算出 婚姻率出所：総務省統計局「国勢調査報告」 人数出所：総務省「人口推計（2019年10月1日現在）」
	2年目	15,000円	32歳	男女	550	82	
	3年目	15,000円	33歳	男女	559	84	
	4年目	15,000円	34歳	男女	580	87	
	5年目	15,000円	35歳	男女	599	90	
	10年目	15,000円	40歳	男女	658	99	
	15年目	15,000円	45歳	男女	809	121	
	20年目	15,000円	50歳	男女	749	112	
	25年目	15,000円	55歳	男女	657	99	
	30年目	15,000円	60歳	男女	621	93	
	35年目	15,000円	65歳	男女	631	95	
	40年目	15,000円	70歳	男女	863	129	
	45年目	15,000円	75歳	男女	631	95	
	50年目	15,000円	80歳	男女	438	66	
	55年目	15,000円	85歳	男女	352	53	
	60年目	15,000円	90歳	男女	198	30	
合計						1,415	

各TAMの概算値計算前提 (3/3)

イベント	区分	単価	人数			合計額 (億円)	計算前提 / 出所
			年齢	男女	合計 (千人)		
ペット撮影	犬	15,000円			7,152	1,073	人数には、飼育世帯数を記載 飼育世帯数出所：一般社団法人 ペットフード協会
	猫	15,000円			5,524	829	
	合計					1,901	
終活撮影		15,000円	60～64	男女	43	7	人数には、各年代の死亡者数を記載 死亡者数出所：厚生労働省「平成30年 人口動態統計」
		15,000円	65～69	男女	86	13	
		15,000円	70～74	男女	115	17	
		15,000円	75～79	男女	158	24	
		15,000円	80～84	男女	225	34	
		15,000円	85～89	男女	277	42	
		15,000円	90～94	男女	235	35	
		15,000円	95～99	男女	109	16	
		15,000円	100歳以上	男女	28	4	
合計					191		
長寿祝い	還暦	15,000円	61歳	男女	1,485	223	人数出所：総務省「人口推計（2019年10月1日現在）」
	古希	15,000円	70歳	男女	2,124	319	
	喜寿	15,000円	77歳	男女	1,500	225	
	傘寿	15,000円	80歳	男女	1,078	162	
	米寿	15,000円	88歳	男女	648	97	
	卒寿	15,000円	90歳	男女	486	73	
	白寿	15,000円	99歳	男女	43	6	
	百寿	15,000円	100歳	男女	35	5	
	合計					1,110	

本説明資料およびその他IRに関するお問い合わせ先

株式会社デコルテ・ホールディングス IR担当

URL : <https://ir.decollte.co.jp/>

E-mail : ir@decollte.co.jp